

CZ
861
09

商法目錄

第一編 商ノ通則

第二章 商業登記簿

第四章 商業帳簿

第六章 商事會社及共算商業組合

商事會社總則

第一節 合名會社

第一款 會社ノ設立

第二款 會社契約ノ變更

第三款 社員間ノ權利義務

第四款 第三者ニ對シテ社員ノ權利義務

第五款 社員ノ退社

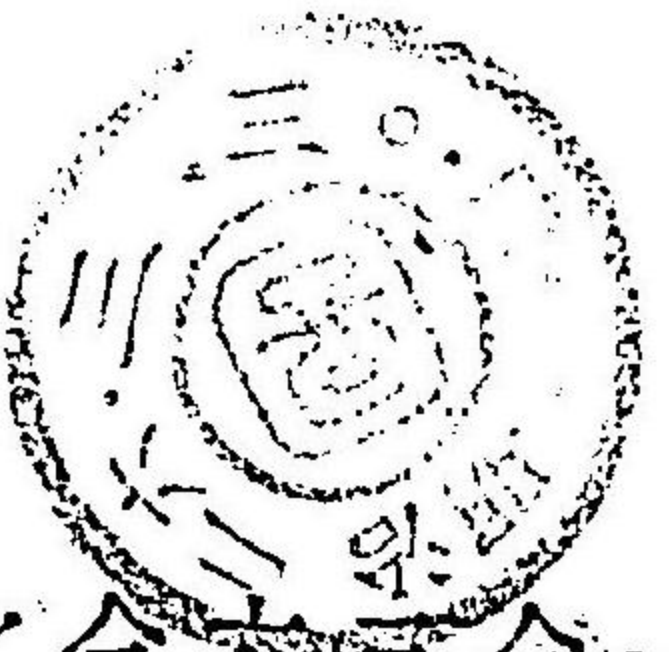
第六款 會社ノ解散

第二節 合資會社

第三節 株式會社

第一款 總則

第二款 會社ノ發起及ヒ設立



| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一 | 全 | 全 | 二 | 十 | 十 | 十 | 十 | 全 | 九 | 全 | 七 | 全 | 六 | 三 | 全 | 一 |
| | | | 十 | 九 | 六 | 五 | 三 | | | | | | | | | |
| | | | 丁 | 丁 | 丁 | 丁 | 丁 | 丁 | 丁 | 丁 | 丁 | 丁 | 丁 | 丁 | 丁 | 丁 |

特 61
647

| | | |
|------|----------------|---|
| 第三款 | 會社ノ商號及ヒ株主名簿 | 二 |
| 第四款 | 株式 | 二 |
| 第五款 | 取締役及ヒ監査役 | 二 |
| 第六款 | 株主總會 | 二 |
| 第七款 | 定款ノ變更 | 三 |
| 第八款 | 株金ノ拂込 | 三 |
| 第九款 | 會社ノ義務 | 三 |
| 第十款 | 會社ノ検査 | 三 |
| 第十一款 | 取締役及ヒ監査役ニ對スル訴訟 | 三 |
| 第十二款 | 會社ノ解散 | 全 |
| 第十三款 | 會社ノ清算 | 全 |
| 第四節 | 罰則 | 四 |
| 第五節 | 共算商業組合 | 四 |
| 第十二章 | 手形及ヒ小切手 | 四 |
| 總則 | | 五 |
| 第一節 | 爲替手形 | 全 |
| 第一款 | 振出 | 五 |

| | | |
|------|-------|---|
| 第二款 | 裏書 | 五 |
| 第三款 | 引受 | 五 |
| 第四款 | 榮譽引受 | 五 |
| 第五款 | 保證 | 六 |
| 第六款 | 支拂 | 全 |
| 第七款 | 榮譽支拂 | 六 |
| 第八款 | 償還請求 | 六 |
| 第九款 | 拒證書作成 | 六 |
| 第十款 | 戻爲替手形 | 七 |
| 第十一款 | 資金 | 七 |
| 第二節 | 約束手形 | 七 |
| 第三節 | 小切手 | 七 |
| 第三編 | 破産 | 七 |
| 第一章 | 破産宣告 | 全 |
| 第二章 | 破産ノ効力 | 七 |
| 第三章 | 別除權 | 八 |
| 第四章 | 保全處分 | 八 |

○商法目錄

第五章 財團ノ管理及ヒ換價
 第六章 債權者
 第一節 債權ノ届出及ヒ確定
 第二節 特種ノ債權者
 第三節 債權者集會
 第七章 協諧契約
 第八章 配當
 第九章 有罪破産
 第十章 破産ヨリ生スル身上ノ結果
 第十一章 支拂猶豫
 ○商法施行條例

四
 八十五丁
 八十九丁
 九十三丁
 九十四丁
 九十五丁
 九十七丁
 九十九丁
 百一丁
 百二丁

目錄畢

法律第九號
 第一條 商法及ヒ商法施行條例中別冊ノ通り改正ス

第二條 商法第一編第六章第十二章及ヒ第三編並ニ商法施行條例第一條乃至第三條第五條乃至第八條第十條乃至第二十七條第三十五條乃至第四十五條第四十八條乃至第五十一條及ヒ第五十三條第三項ハ明治二十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第三條 商法第一編第二章及ヒ第四章ハ右同日ヨリ商事會社ニ付テ之ヲ施行ス



第二章 商業登記簿
 第十八條 商號 後見人 未成年者、婚姻契約、代務及ヒ會社ニ關スル商業登記簿ハ當事者ノ營業所又ハ住所ノ裁判所ニ之ヲ備ヘ登記及ヒ之ニ關スル事務ハ其裁判所之ヲ行フ
 前項ノ營業所又ハ住所ヲ他ノ地ニ移シタルトキハ既ニ登記シタル事實カ尙ホ存スル場合ニ限リ移轉地ニ於テモ亦更ニ其登記ヲ受ク

○商法

可シ

二

第十九條 登記ハ其度毎ニ裁判所ヨリ其地ニ於テ發行スル新聞紙ヲ以テ速ニ之ヲ公告ス可シ其新聞紙ハ豫メ一曆年ノ間之ヲ定メ置クコトヲ要ス若シ其地ニ發行ノ新聞紙ナキトキハ其公告ノ方法ハ司法大臣ノ定ムル所ニ依ル又各人ニ商業登記簿ノ縱覽ヲ許シ且手数料ヲ納ムル者ニハ認證シタル謄本ヲ請フコトヲ許ス

登記及ヒ公告ヲ受クル毎ニ手数料ヲ納メシム其額ハ勅令ヲ以テ一定平等ニ之ヲ定ム

第二十條 登記ヲ受ケントスルトキハ當事者ノ署名捺印シタル陳述書ヲ以テ自己又ハ委任狀ヲ受ケタル代理人ヨリ届出ツルコトヲ要ス其登記ハ即日又ハ翌日中ニ之ヲ爲ス

第二十一條 若シ裁判所ニ於テ登記ヲ拒ミタルトキハ當事者ヨリ其命令ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

登記ノ變更又ハ取消ニ付テモ亦前項ニ同シ

第二十二條 登記シタル事項ハ公ニシテ且裁判所ノ認知シタルモノトス何人ト雖モ毫モ己レノ過失ニ非サルコトヲ證シ得ルニ非サルハ之ヲ知ラサルヲ以テ己レヲ保護スルコトヲ得然レトモ其事項

ハ他ノ方法ニ因リ之ヲ知得タル者ニ對シテハ登記ノ前後ヲ問ハス其効用ヲ致サシム但權利關係カ登記ニ因リ始メテ生ス可キ例外ノ場合ハ其場所ニ於テ之ヲ定ム

第四章 商業帳簿

第三十一條 各商人ハ其營業部類ノ慣例ニ從ヒ完全ナル商業帳簿ヲ備フル責アリ殊ニ帳簿ニ日日其取扱ヒタル取引、他人トノ間ニ成立チタル自己ノ權利義務、受取り又ハ引渡シタル商品、支拂ヒ又ハ受取りタル金額ヲ整齊且明瞭ニ記入シ又月月其家事費用及ヒ商業費用ノ總額ヲ記入ス

小賣ノ取引ハ現金賣ト掛賣トヲ問ハス逐一之ヲ記入スルコトヲ要セス日日ノ賣上總額ノミヲ記入ス

第三十二條 各商人ハ開業ノ時及ヒ爾後毎年年初ノ三ヶ月内ニ又合資會社及ヒ株式會社ハ開業ノ時及ヒ毎事年度ノ終ニ於テ動産、不動産ノ總目錄及ヒ貸方借方ノ對照表ヲ作り特ニ設ケタル帳簿ニ記入シテ署名スル責アリ

財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルニハ總テノ商品、債權及ヒ其他總テノ財産ニ當時ノ相場又ハ市場價直ヲ附ス辨償ヲ得ルコトノ確ナ

○商法

三

ヲサル債權ニ付テハ其推知シ得ヘキ損失額ヲ扣除シテ之ヲ記載シ
又到底損失ニ歸ス可キ債權ハ全ク之ヲ記載セズ

第三十三條 每半年又ハ每半年内ニ利息又ハ配當金ヲ社員ニ分
配スル會社ハ每半年ニ前條記載ノ責ヲ盡ス可シ

第三十四條 各商人ハ十年間商業帳簿ヲ貯藏シ火災又ハ其他ノ意
外ノ事變ニ因リテ喪失又ハ毀損セサルコトニ注意スル責アリ

第三十五條 商人ノ商業帳簿ハ其一身ノ所有物ニシテ破産又ハ會社
清算ノ場合ヲ除ク外官權ヲ以テ之ヲ交付セシムルコトヲ得ス

第三十六條 然レトモ相續ニ關スル事件、共通ニ關スル事件、分割ニ
關スル事件及ヒ業務取扱ニ關スル爭訟ニ付キ當事者ノ申立ニ因リ

裁判所ノ命令アルトキハ總テノ商業帳簿ヲ差出ササルコトヲ得ス
第三十七條 爭訟中原告又ハ被告ノ申立アルトキハ受訴裁判所ハ相

手方ノ商業帳簿ノ開示ヲ命シ其所有者ノ面前ニ於テ右爭訟事件ニ
關スル記入ノ檢閲又ハ時宜ニ因リテ其謄寫ヲ爲サシム若シ其帳簿

カ他ノ地ニ在ルトキハ右裁判所ハ其地ニ就キ又ハ其地ノ裁判所ニ
囑託シテ檢閲又ハ謄寫ヲ爲サシム

第三十八條 何人ニテモ商業帳簿又ハ其中ノ一ヲ開示不可キ裁判所
ノ命令ニ從ハサル者ハ之ヲ以テ證ス可キ爭訟事件ニ付キ自己ノ不

利ト爲ル推定ヲ受ク但其開示セサリシハ自己ノ過失ニ非サルコト
ヲ證シ又ハ疏明シ得ルトキハ此限ニ在ラス

第三十九條 商業帳簿ノ記入ノ證據力ハ裁判所事情ヲ斟酌シテ之ヲ
判決ス然レトモ其記入ノミヲ以テ記入者ノ利益ト爲ル可キ十分ノ

證ト爲スコトヲ得ス但相手方ニ於テモ亦其記入ヲ援用シタルトキ
又ハ相手方カ商人ニシテ自己ノ帳簿ニ於ケル反對ノ記入ヲ以テ之

ニ對抗シ能ハサルトキ又ハ相手方ニ於テ其不正ナルコトヲ少シニ
テモ信認セシメ得サルトキハ此限ニ在ラス

相手方其記入ヲ援用シタル場合ニ於テ之ト連絡セル記入アルトキ
モ亦同シ

第四十條 原告被告雙方ノ商業帳簿ノ記入相抵觸シテ解明シ能ハ
サルトキニ於テモ亦裁判所ハ事情ヲ斟酌シテ其證據物ヲ全ク擲棄

スルト否ト又ハ一方ノ帳簿ニ一層ノ信用ヲ置クト否トヲ判決ス
第四十一條 商業帳簿カ十分ノ證ト爲ラサル總テノ場合ニ於テハ裁

判所カ事情ヲ斟酌シテ定ム可キ他ノ證據ヲ以テ之ヲ補充スルコト
ヲ得

第六章 商事會社及ヒ共算商業組合

商事會社總則

第六十六條 商事會社ハ共同シテ商業ヲ營ム爲メニノミ之ヲ設立スルコトヲ得

第六十七條 法律ニ背キ又ハ禁止セラレタル事業ヲ目的トスル會社ハ初ヨリ無効ナリ

若シ會社ノ營業カ公安又ハ風俗ヲ害ス可キトキハ裁判所ハ檢事ノ申立ニ因リ又ハ職權ニ依リ其命令ヲ以テ之ヲ解散セシムルコトヲ得但其命令ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十八條 法律、命令ニ依リ官廳ノ許可ヲ受ク可キ營業ヲ爲サントスル會社ハ其許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第六十九條 會社ノ設立ハ適當ナル登記及ヒ公告ヲ受クルニ非サレハ第三者ニ對シテ會社タル効ナシ

第七十條 會社ハ社名ヲ設ケ社印ヲ製シ定マリタル營業所ヲ設クルコトヲ要ス

第七十一條 社印ニハ社名ヲ刻シ其印鑑ヲ商業登記簿ニ添ヘテ保存

スル爲メ之ヲ第十八條ニ掲ケタル裁判所ニ差出スコトヲ要ス社印ヲ變更シ又ハ改刻スルトキモ亦此手續ヲ爲ス

七十二條 社名及ヒ社印ハ官廳ニ宛テタル文書又ハ報告書、株券、手形及ヒ會社ニ於テ權利ヲ得義務ヲ負フ可キ一切ノ書類ニ之ヲ用ユ

第七十三條 會社ハ特立ノ財産ヲ所有シ又獨立シテ權利ヲ得義務ヲ負フ又訴訟ニ付キ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得

第一節 合名會社

第一款 會社ノ設立

第七十四條 二人以上共通ノ計算ヲ以テ商業ヲ營ム爲メ金錢又ハ有價物又ハ勞力ヲ出資ト爲シテ共有資本ヲ組成シ責任其出資ニ止マラサルモノヲ合名會社ト爲ス

第七十五條 社名ニハ總社員又ハ其一人若クハ數人ノ氏ヲ用キ之ニ會社ナル文字ヲ附ス可シ

會社若シ現在セル他人ノ營業ヲ引受クルトキハ其舊社名ヲ續用スルコトヲ得ス

第七十六條 社員ノ退社シタル後ト雖モ從前ノ社名ヲ續用スルコト

ヲ得但退社員ノ氏ヲ社名中ニ續用セントスルトキハ本人ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス

第七十七條 會社ハ書面契約ニ因リテノミ之ヲ設立スルコトヲ得其契約書ハ總社員之ニ連署ス

右ノ規定ハ會社契約ノ變更ニ於テモ亦之ヲ遵守ス

第七十八條 會社ハ設立後十四日內ニ本店及ヒ支店ノ地ニ於テ其登記ヲ受ク可シ

第七十九條 登記及ヒ公告ス可キ事項左ノ如シ

第一 合名會社ナルコト

第二 會社ノ目的

第三 會社ノ社名及ヒ營業所

第四 各社員ノ氏名、住所

第五 設立ノ年月日

第六 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期

第七 業務擔當社員ヲ特ニ定メタルトキハ其氏名

第八十條 前條ニ掲ケタル一箇又ハ數箇ノ事項ニ變更ヲ生シ又ハ合意ヲ以テ變更ヲ爲シタルトキハ七日內ニ其登記ヲ受ク可シ

第八十一條 會社ハ登記前ニ事業ニ著手スルコトヲ得ス之ニ違フトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ其事業ヲ差止ム但其命令ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第八十二條 會社其登記ノ日ヨリ六個月內ニ事業ニ著手セサルトキハ其登記及ヒ公告ハ無効タリ

第二款 會社契約ノ變更

第八十三條 會社契約ハ總社員ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス其承諾ヲキトキハ契約ノ從前ノ規定ニ從フ

第八十四條 會社契約ノ規定ニシテ會社ノ施行セサリシモノハ社員又ハ第三者ニ對シテ其効用ヲ致サシムルコトヲ得ス

第三款 社員間ノ權利義務

第八十五條 社員間ノ權利義務ハ本法及ヒ會社契約ニ因リテ定マルモノトス

第八十六條 會社ノ目的ニ反セサルモ之ニ異ナル業務及ヒ事項ニ付テハ業務擔當ノ任アル總社員ノ承諾ヲ要ス

第八十七條 會社契約ノ規定ノ施行ニ關スル事項ハ業務擔當ノ任アル社員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス

○商法

第八十八條 會社ノ業務ヲ行ヒ及ヒ其利益ヲ保衛スルニ付テハ各社員同等ノ權利ヲ有シ義務ヲ負フ但會社契約ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第八十九條 社員ノ議決權ハ其出資ノ額ニ應シテ等差ヲ立ツルコトヲ得ス

第九十條 業務擔當ノ任ナキ社員ハ何時ニテモ業務ノ實況ヲ監視シ會社ノ帳簿及ヒ書類ヲ檢査シ且此事ニ關シ意見ヲ述フルコトヲ得

第九十一條 業務擔當ノ任アル各社員ハ代務ノ委任又ハ解任ヲ爲ス權利アリ

第九十二條 各社員ハ會社ニ對シ正整ナル商人ノ自己ノ事務ニ於テ爲スト同シキ勉勵注意ヲ爲ス義務アリ其義務ニ背キ會社ニ損害ヲ生セシメタルトキハ之ヲ賠償スルコトヲ要ス

第九十三條 社員ノ差入レタル金錢又ハ有價物ノ出資ハ契約ニ定メタル評價額ヲ附シテ會社ノ財産目錄ニ記入シ會社ノ所有ニ歸ス

第九十四條 社員其負擔シタル出資ヲ差入ルルコト能ハサルトキハ除名セラレタルモノト看做ス但總社員ノ承諾ヲ得テ他ノ出資ヲ差

入ルルトキハ此限ニ在ラス

第九十五條 社員其負擔シタル出資ヲ差入レサルトキハ會社ハ之ヲ除名スルト會社契約ニ定メタル利息ヲ拂ハシムルトヲ擇ミ尙ホ其孰レノ場合ニ於テモ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第九十六條 社員ハ契約上ノ額外ニ出資ヲ増シ又ハ損失ニ因リテ減シタル出資ヲ補充スル義務ナシ

第九十七條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其出資又ハ會社財産中ノ持分ヲ減スルコトヲ得ス

第九十八條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ第三者ヲ入社セシメ又ハ第三者ヲシテ己レノ地位ニ代ハラシムルコトヲ得ス

第九十九條 社員ヨリ他人ニ爲シタル持分ノ讓渡ハ會社及ヒ第三者ニ對シテ其効ナシ

第一百條 社員其持分ニ他人ヲ加入セシムルトキハ其關係ハ共算商業組合ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第一百一條 社員カ會社ニ消費貸ヲ爲シ又ハ會社ノ爲メニ立替金ヲ爲シタルトキハ會社契約ニ定メタル年利息ヲ求ムルコトヲ得又社員カ業務施行ノ爲メ直接ニ受ケタル損失ニ付テハ其補償ヲ求ムルコト

トヲ得

十二

第二百二條 會社契約ニ於テ明示ノ台意ナキトキハ社員ハ業務施行ノ勤勞ニ付キ其報酬ヲ求ムルコトヲ得ス然レトモ勞力ヲ出資ト爲シタル社員其負擔シタル出資外ニ爲シタル勞力ニ付テハ相當ノ報酬ヲ求ムルコトヲ得

第二百三條 社員カ會社ノ爲メニ受取リタル金錢ヲ相當ノ時日内ニ會社ニ引渡サス又ハ會社ノ金錢ヲ自己ノ用ニ供シタルトキハ會社ニ對シテ會社契約ニ定メタル利息ヲ拂ヒ且如何ナル損害ヲモ賠償スル義務アリ

第二百四條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ自己ノ計算ニテモ又第三者ノ計算ニテモ會社ノ商部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ之ニ與カルコトヲ得ス之ニ背キタルトキハ會社ハ其擇ニ從ヒ其社員ヲ除名シ又ハ其取引ヲ會社ニ引受ケ尙ホ其執レノ場合ニ於テモ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第二百五條 各社員ノ會社ノ損益ヲ共分スル割合ハ契約ニ於テ他ノ準率ヲ定メサルトキハ其出資ノ價額ニ準ス
出資ト爲シタル勞力ノ價額ヲ契約ニ於テ定メサルトキハ各股ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第二百六條 社員カ業務擔當ノ任ナクシテ業務擔當ノ所爲ヲ爲シ又ハ會社ニ對シテ詐欺ヲ行ヒ又ハ其他會社ニ對シテ主要ノ責務ヲ甚シク缺キタルトキハ會社ハ之ヲ除名シ且損害賠償ヲ求ムルコトヲ得
第二百七條 社員カ會社契約ニ依リ又ハ本法ノ規定ニ依リテ會社ノ爲メニ爲シタル總テノ行爲及ヒ取引ハ各社員互ニ之ヲ承認スル義務アリ

第四款 第三者ニ對スル社員ノ權利義務

第二百八條 會社ハ業務擔當ノ任アル社員ノ明示シテ會社ノ爲メニ爲シ又ハ事實會社ノ爲メニ爲シタル總テノ行爲ニ因リテ直接ニ權利ヲ得義務ヲ負フ

第二百九條 會社ノ權利ハ業務擔當ノ任アル社員裁判上ト裁判外トトテ問ハス之ヲ主張シ又有効ニ之ヲ處分スルコトヲ得

第三百十條 第三者ニ對スル會社ノ義務ハ第三者ヨリ業務擔當ノ任アル各社員ニ對シテ其履行ヲ求ムルコトヲ得

第三百十一條 業務擔當ノ任アル社員ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ第三者ニ對シテ其効ナシ

○商法

十三

第百十一條 會社ノ義務ニ付テハ先ツ會社財產之ヲ負擔シ次ニ各社員其全財產ヲ以テ連帶ニテ之ヲ負擔ス

第百十三條 社員ニ非スシテ社名ニ其ノ氏ヲ表スルコトヲ承諾シ又ハ會社ノ業務ノ施行ニ與カリ又ハ事實社員タルノ權利義務ヲ有スル者ハ社員ト同シク連帶無限ノ責任ヲ負フ

第百十四條 商業使用人又ハ代務人ハ其給料ノ全部又ハ一分ヲ一定又ハ不定ノ利益配當ニ因リテ受クルモノト雖モ前條ノ者ト同視セ

第百十五條 新ニ入社スル社員ハ契約上他ノ定ナキトキハ其入社前ニ生シタル會社ノ義務ニ付テモ責任ヲ負フ

第百十六條 會社財產ニ屬スル物ハ社員ノ債權者其債權ノ爲メ之ヲ請求スルコトヲ得ス但差入前ニ於テ其物ニ付キ第三者ノ爲メ權利ノ設定セラレタルトキハ此限ニ在ラス

第百十七條 社員ノ債權者ハ社員自ラ要求シ得ヘキ利息又ハ配當金ノミヲ會社ニ對シテ要求スルコトヲ得然レトモ社員ノ持分ハ社員ノ退社又ハ會社解散ノ場合ニ非サレハ之ヲ要求スルコトヲ得ス

第百十八條 會社ニ對スル債務ト社員ニ對スル債權ト又會社ニ對スル債權ト社員ニ對スル債務トノ相殺ハ會社財產ノ分割前ニ在テハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第百十九條 社員ノ持分ヲ減シタル爲メ會社ノ債權者カ其會社財產ヨリ得ヘキ辨償ヲ減損セラレ又ハ支障セラレタルトキハ減少ノ時ヨリ二年内ニ在テハ其減少ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得

第五款 社員ノ退社

第百二十條 社員ハ會社契約カ有期ナルトキハ總社員ノ承諾ヲ要シ無期又ハ終身ナルトキハ其承諾ヲ要セスシテ任意ニ退社スルコトヲ得

其退社ハ六个月前ニ豫告ヲ爲シタル上事業年度ノ末ニ限ル但急速ニ退社ス可キ重要ノ事由アルトキハ此限ニ在ラス

第百二十一條 右ノ外社員ハ左ノ諸件ニ因リテ退社ス

第一 除名

第二 死亡但會社契約又ハ總社員ノ承諾ニ依リ相續人其他ノ承繼人死亡者ノ地位ニ代ハル可キトキハ此限ニ在ラス

第三 破産又ハ家資分散

第四 能力ノ喪失但特約ナキトキニ限ル

第二百二十二條 社員退社スル毎ニ會社ハ七日内ニ其理由ヲ附シタル登記ヲ受ク可シ

第二百二十三條 會社ハ退社員ノ爲メ特ニ作リタル貸借對照表ニ依リ退社ノ時ノ割合ヲ以テ其持分ヲ退社員又ハ其相續人若クハ承繼人ニ拂渡スコトヲ要ス

退社前ノ取引ニシテ未ダ結了セサルモノハ其結了ノ後之ヲ計算スルコトヲ得

第二百二十四條 退社員ノ持分ノ價直ハ特約アルニ非サレハ其出資ノ何種類タルヲ問ハス金錢ノミニテ之ヲ拂渡ス

勞力ノ出資又ハ其他退社ト共ニ終止スル出資ニ付テハ特約アルニ非サレハ之ニ對スル報償ヲ爲ス義務ナシ

第二百二十五條 退社員ハ退社前ニ係ル會社ノ義務ニ付テハ退社後二

今年間仍ホ全財産ヲ以テ其責任ヲ負フ

第九十八條ノ場合ニ於テ第三者ヲシテ己レノ地位ニ代ハラシメタル者ニ付テモ亦前項ヲ適用ス

第六款 會社ノ解散

第二百二十六條 會社ハ左ノ諸件ニ因リテ解散ス

第一 會社存立期ノ滿了

第二 會社契約ニ定メタル解散事由ノ起發

第三 總社員ノ承諾

第四 會社ノ破産

第五 裁判所ノ命令

第二百二十七條 第六十七條ニ掲ケタル場合ノ外會社其目的ヲ達スルコト能ハス又ハ會社ノ地位ヲ維持スルコト能ハサルノ理由ヲ以テ一人又ハ數人ノ社員ヨリ會社ノ解散ヲ申立ツルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ解散セシムルコトヲ得

會社ノ地位ヲ維持スルコト能ハサル場合ニ於テ會社ノ解散ニ換ヘテ或ル社員ヲ除名ス可キコトヲ他ノ總社員ヨリ相當ノ理由ヲ以テ申立ツルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ除名スルコトヲ得

前二項ニ掲ケタル裁判所ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百二十八條 第二百二十六條ノ第一號第二號ニ記載シタル場合ニ於テハ總社員又ハ社員ノ一分ニテ會社ヲ保續スルコトヲ得但社員ノ

○附注

一分ニテ保續シタルトキハ其離脱シタル社員ハ退社シタルモノト看做ス

第二百二十九條 會社解散スルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外總社員ノ多數決ヲ以テ清算人一人又ハ數人ヲ任シ七日内ニ解散ノ原由、年月日及ヒ清算人ノ氏名、住所ノ登記ヲ受ク可シ

第三百十條 清算人ハ會社ノ現務ヲ結了シ會社ノ義務ヲ履行シ未收ノ債權ヲ行用シ現存ノ財産ヲ賣却ス又清算人ハ清算ノ目的ヲ超エテ營業ヲ保續シ又ハ新ニ取引ヲ爲スコトヲ得ス又清算人ハ裁判上會社ヲ代理シ且會社ノ爲メ和解契約及ヒ仲裁契約ヲ爲スコトヲ得

第三百十一條 清算人ノ權ハ社員之ヲ制限スルコトヲ得ス且重要ナル事由ニ基ク社員ノ申立ニ因リ裁判所ノ命令ヲ以テスルニ非サルハ之ヲ解任スルコトヲ得ス但其命令ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百十二條 清算人ハ委任事務ヲ履行シタル後社員ニ計算ヲ報告シ第三百五條及ヒ第二百二十四條ノ規定ニ準シ會社財産ヲ社員ニ分配ス又清算中ト雖モ自由ト爲リタル財産ハ之ヲ社員ニ分配スルコトヲ得

ヲ得

第三百十三條 社員ニ分配ス可キ物ハ會社ノ總テノ義務ヲ濟了スルニ要セサル會社財産ニ限ル

第三百十四條 解散シタル會社ノ商業帳簿及ヒ其他ノ書類ハ社員第三十四條ノ規定ニ從ヒ之ヲ處分ス

第三百十五條 會社ノ義務ニ對スル社員ノ無限責任ハ其義務ニ付キ五ヶ年未滿ノ時効ノ定ナキトキニ限り解散後五ヶ年ノ滿了ニ因リテ時効ニ罹ル但債權者カ未タ分配セラレサル會社財産ニ對シテ請求ヲ爲ストキハ此限ニ在ラス

第二節 合資會社

第三百十六條 社員ノ一人又ハ數人ニ對シテ契約上別段ノ定ナキトキハ社員ノ責任カ金錢又ハ有價物ヲ以テスル出資ノミニ限ルモノヲ合資會社ト爲ス

第三百十七條 合資會社ハ本節ニ定メタル規定ノ外總テ合名會社ノ規定ニ從フ

第三百十八條 合資會社ノ登記及ヒ公告ニハ第七十九條ノ第二號乃至第六號ニ列記シタルモノ、外尙ホ左ノ事項ヲ掲クルコトヲ要ス

○商法

- 第一 合資會社ナルコト
 - 第二 會社資本ノ總額
 - 第三 各社員ノ出資額
 - 第四 無限責任社員アルトキハ其氏名
 - 第五 業務擔當社員ノ氏名
- 第三百二十九條 社名ニハ社員ノ氏ヲ用ユルコトヲ得ス但無限責任社員ノ氏ハ此限ニ在ラス又社名ニハ何レノ場合ニ於テモ合資會社ナル文字ヲ附ス可シ
- 若シ社名ニ社員ノ氏ヲ用ヰタルトキハ其社員ハ此カ爲メ當然會社ノ義務ニ對シテ無限ノ責任ヲ負フ
- 第四百十條 無限責任ノ社員、業務擔當社員ヲ除ク外社員ハ自己ノ計算又ハ第三者ノ計算ニテ會社ノ商部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ之ニ與カルコトヲ得
- 第四百十一條 業務擔當社員ノ選任及ヒ解任ハ總社員四分三以上ノ多數決ニ依ル
- 第四百十二條 業務擔當社員ハ會社契約ニ依リ一定ノ無限責任社員ノミヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

- 第四百十三條 業務擔當社員ハ裁判上ト裁判外トヲ問ハス總テ會社ノ事務ニ付キ會社ヲ代理スル專權ヲ有ス然レトモ會社契約又ハ會社ノ決議ニ依リテ羈束セラル
- 數人ノ業務擔當社員又ハ取締役アル場合ニ於テ各別ニ業務ヲ取扱フコトヲ得ルモノタリヤ又ハ其總員若クハ數人共同ニ非サレハ之ヲ取扱フコトヲ得サルモノタリヤハ會社契約又ハ會社ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム
- 第四百十四條 業務擔當社員ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ善意ヲ以テ之ト取引ヲ爲シタル第三者ニ對シテ其効ナシ
- 第四百十五條 有限責任社員ハ業務擔當社員ノ認可ヲ得テ其持分ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得此場合ニ於テハ取得者ハ讓渡人ノ權利義務ヲ襲承ス
- 第四百十六條 業務擔當社員ハ其業務施行中ニ生シタル會社ノ義務ニ付キ連帶無限ノ責任ヲ負フ
- 第四百十七條 前條ニ掲ケタル連帶無限ノ責任ハ業務擔當社員ノ退任後二個年ノ滿了ニ因リテ消滅ス
- 第四百十八條 業務擔當社員ハ每年少ナクトモ一回通常總會ヲ招集

シ其他業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ニ於テ必要ト認ムルトキ
 又ハ總社員四分一以上ノ申立アルトキハ臨時總會ヲ招集ス可シ
 第四百四十九條 總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ少ナクトモ七日前ニ各
 社員ニ會議ノ目的ヲ通知シ及ヒ提出ス可キ書類ヲ送付スルコトヲ
 要ス

第五百十條 事業年度ノ終リタル後直チニ通常總會ヲ開キ其年度
 ノ貸借對照表及ヒ事業並ニ其成果ノ報告書ヲ社員ニ提出シテ検査
 及ヒ認定ヲ受ク其認定ハ出席社員ノ多數決ニ依ル
 第五百十一條 臨時總會ニ於テ議ス可キ事項ハ總社員ノ過半数ヲ以
 テ之ヲ決ス

然レトモ合名會社ニ在テ總社員ノ承諾ヲ要ス可キ事項ハ總社員四
 分三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス此場合ニ於テハ不同意ノ社員ハ直
 チニ退社スル權利アリ
 第五百十二條 前條ニ掲ケタル決議ニ要スル定數ノ社員出席セサル
 トキハ其總會ニ於テ假ニ決議ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其決
 議ヲ總社員ニ通知シテ再ヒ總會ヲ招集ス其通知ニハ若シ第二ノ總
 會ニ於テ出席社員ノ多數ヲ以テ第一ノ總會ノ決議ヲ認可シタルト

キハ之ヲ有効ト爲スコキ旨ヲ明告スルコトヲ要ス

第五百十三條 利息又ハ配當金ハ會社資本額カ損失ニ因リテ減シタ
 ル間ハ之ヲ社員ニ拂渡スコトヲ得ス

第三節 株式會社

第一款 總則

第五百十四條 會社ノ資本ヲ株式ニ分チ其義務ニ對シテ會社財産ノ
 ニ責任ヲ負フモノヲ株式會社ト爲ス

第五百十五條 株式會社ハ其目的カ商業ヲ營ムニ在ラサルモ商事會
 社總則本節及ヒ次節ノ規定ニ從フ

第五百十六條 株式會社ハ七人以上ヲ以テシ且政府ノ免許ヲ得ルニ
 非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第二款 會社ノ發起及ヒ設立

第五百十七條 株式會社ハ四人以上ニ非サレハ之ヲ發起スルコトヲ
 得ス

發起人ハ目論見書及ヒ假定款ヲ作り各自之ニ署名捺印ス
 定款ハ本法ノ規定ニ牴觸スルコトヲ得ス

第五百十八條 目論見書ニ記載ス可キ事項左ノ如シ

○商

第一 株式會社ナルコト

第二 會社ノ目的

第三 會社ノ社名及ヒ營業所

第四 資本ノ總額、株式ノ總數及ヒ一株ノ金額

第五 資本使用ノ概算

第六 發起人ノ氏名、住所及ヒ發起人各自ノ引受クル株數

第七 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期

第百五十九條 發起人ハ會社ヲ設立ス可キ地ノ地方長官ヲ經由シテ
目論見書及ヒ假定款ヲ主務省ニ差出シ發起ノ認可ヲ請フコトヲ要
ス

第百六十條 發起人ハ前條ノ認可ヲ得タルトキハ目論見書ヲ公告
シテ株主ヲ募集スルコトヲ得其公告中ニハ法律ニ規定シタル發起
ノ認可ヲ得タル旨及ヒ其認可ノ年月日ト各株式申込人ニ假定款ヲ
展閱セシムル旨トヲ附記ス

第百六十一條 株式ノ申込ヲ爲スニハ申込人其引受クル株數ヲ株式
申込簿ニ記入シテ之ニ署名捺印ス又其申込ハ署名捺印シタル陳述
書ノ送附ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

代人ヲ以テ申込ムトキハ委任者ノ氏名ニ代人其氏名ヲ附記シテ之
ニ捺印ス

第百六十二條 株式ノ申込ニ因リテ申込人ハ會社設立スルニ至レハ
定款ニ從ヒ各株式ニ付テノ拂込ヲ爲ス可キ義務ヲ負フ

第百六十三條 總株式ノ申込アリタル後ハ發起人ハ創業總會ヲ開ク
可シ其總會ニ於テハ少ナクモ總申込人ノ半數ニシテ總株金ノ半
額以上ニ當ル申込人ノ承認ヲ經テ定款ヲ確定ス

第百六十四條 創業總會ニ於テハ創業ノ爲メ發起人ノ爲シタル契約
及ヒ出費ノ認否ヲ議定シ又有價物ノ出資ヲ差入ソテ株式ヲ受ク可
キ者アルトキハ其價格ヲ議定ス

前項ノ議定ハ少ナクモ總申込人ノ半數ニシテ總株金ノ半額以上
ニ當ル申込人出席シ其議決權ノ過半數ニ依リテ之ヲ爲ス

第百六十五條 其他創業總會ニ於テハ取締役及ヒ監查役ヲ選定ス

第百六十六條 創業總會ノ終リシ後發起人ハ地方長官ヲ經由シテ主
務省ニ會社設立ノ免許ヲ請フ其申請書ニハ左ノ書類ヲ添フ可シ

第一 目論見書及ヒ定款
第二 株式申込簿

○商法

第三 發起ノ認可證

第六十七條 會社設立ノ免許ヲ得タルトキハ發起人其事務ヲ取締
役ニ引渡ス可シ

取締役ハ速ニ株主ヲシテ各株式ニ付キ少ナクとも四分一ノ金額ヲ
會社ニ拂込マシム

第六十八條 會社ハ前條ニ掲ケタル金額拂込ノ後十四日內ニ日論
見書、定款、株式申込簿及ヒ設立免許書ヲ添ヘテ登記ヲ受ク可シ
登記及ヒ公告ス可キ事項ハ左ノ如シ

第一 株式會社ナルコト

第二 會社ノ目的

第三 會社ノ社名及ヒ營業所

第四 資本ノ總額株式ノ總數及ヒ一株ノ金額

第五 各株式ニ付キ拂込ミタル金額

第六 取締役ノ氏名、住所

第七 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期

第八 設立免許ノ年月日

第九 開業ノ年月日

裁判所ハ會社ヨリ差出シタル書類ヲ登記簿ニ添ヘテ保存ス

第六十九條 會社支店ヲ設ケタルトキハ其所在地ニ於テ亦登記ヲ
受ク可シ

第七十條 設立ノ免許ヲ得タル後遅クとも一个年內ニ登記ヲ受
ケサルトキハ其免許ハ効力ヲ失フ第八十一條及ヒ第八十二條ノ規
定ハ株式會社ニモ亦之ヲ適用ス

第七十一條 登記前ニ在テハ創業總會ノ承認ヲ經タル義務及ヒ出
費ニ付キ發起人、取締役及ヒ株主ニ於テ連帶無限ノ責任ヲ負フ

第七十二條 創業總會ノ承認ヲ經サル義務及ヒ出費ニ付テハ發起
人ニ於テ仍ホ連帶無限ノ責任ヲ負フ

第三款 會社ノ社名及ヒ株主名簿

第七十三條 社名ニハ株主ノ氏ヲ用ユルコトヲ得ス又商號ニハ株
式會社ナル文字ヲ附ス可シ

第七十四條 會社ハ株主名簿ヲ備ヘ之ニ左ノ事項ヲ記載ス

第一 各株主ノ氏名、住所

第二 各株主所有ノ株式ノ數及ヒ株券ノ番號

第三 各株式ニ付キ拂込ミタル金額

○商法

第四 各株式ノ取得及ヒ讓渡ノ年月日

第四款 株式

第七十五條 各株式ノ金額ハ會社資本ヲ一定平等ニ分チタルモノニシテ二十圓ヲ下ルコトヲ得ス又其資本十萬圓以上ナルトキハ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第七十六條 株式ハ一株毎ニ株券一通ヲ作り之ニ其金額、發行ノ年月日、番號、社名、社印、取締役ノ氏名、印及ヒ株主ノ氏名ヲ載ス但定款ニ依リ數株ヲ合シテ一通ノ株券ヲ作ルコトヲ得

第七十七條 株式ハ分割又ハ併合スルコトヲ得ス

第七十八條 株金全額拂込以前ニ於テハ會社ハ假株券ヲ發行シ全額完納ノ後ニ至リ始メテ本株券ヲ發行スルコトヲ得

第七十九條 假株券及ヒ本株券ハ登記前ニ之ヲ發行スルコトヲ得ス

第八十條 登記前ニ爲シタル株式ノ讓渡ハ無効タリ

第八十一條 株式ノ讓渡ハ取得者ノ氏名ヲ株券及ヒ株主名簿ニ記載スルニ非サレハ會社ニ對シテ其効ナシ

第八十二條 株金半額拂込前ノ株式ノ讓渡人ハ讓渡後二個年間會社ニ對シテ其株金未納額ノ擔保義務ヲ負フ

第八十三條 會社ハ株主名簿及ヒ計算ノ閉鎖ノ爲メ公告ヲ爲シテ事業年度毎ニ一个月ヲ踰エサル期間株券ノ讓渡ヲ停止スルコトヲ得

第八十四條 拂込ミタル株金額及ヒ會社財産中ノ持分ハ會社解散前ニ於テハ之ヲ取戻サント求ムルコトヲ得ス

第五款 取締役及ヒ監查役

第八十五條 總會ハ株主中ニ於テ三人ヨリ少ナカラサル取締役ヲ三箇年内ノ時期ヲ以テ選定ス但其時期滿了ノ後再選スルハ妨ナシ取締役ハ同役中ヨリ主トシテ業務ヲ取扱フ可キ專務取締役ヲ置クコトヲ得然レトモ其責任ハ他ノ取締役ト同一ナリ

第八十六條 取締役ノ代理權及ヒ其權ノ制限ニ付テハ第四百三十三條及ヒ第四百四十四條ノ規定ヲ適用ス

第八十七條 取締役ニ選マルル爲メ株主ノ所有ス可キ株數ハ會社定款ニ於テ之ヲ定ム取締役ノ在任中ハ其株券ノ融通ヲ禁スル爲メ封印シテ之ヲ會社ニ預リ置ク可シ

第八十八條 取締役ハ其職分上ノ責務ヲ盡スコト及ヒ定款並ニ會

○商法

社ノ決議ヲ遵守スルコトニ付キ會社ニ對シテ自己ニ其責任ヲ負フ
第百八十九條 取締役ハ會社ノ義務ニ付キ各株主ニ異ナラサル責任
ヲ負フ然レトモ定款又ハ總會ノ決議ヲ以テ取締役ノ在任中ニ生シ
タル義務ニ付キ取締役カ連帶無限ノ責任ヲ負フ可キ旨ヲ豫メ定ム
ルコトヲ得其責任ハ退任後二個年ノ滿了ニ因リテ消滅ス

第百九十條 取締役ノ更迭ハ其度毎ニ登記ヲ受ク可シ

第百九十一條 總會ハ株主中ニ於テ二人以上監查役ヲ二個年内ノ時
期ヲ以テ選定ス但其時期滿了ノ後再選スルハ妨ナシ

第百九十二條 監查役ノ職分ハ左ノ如シ

- 第一 取締役ノ業務施行カ法律、命令、定款及ヒ總會ノ決議ニ適
合スルヤ否ヤヲ監視スルコト
- 第二 計算書、財産目録、貸借對照表、事業報告書利息又ハ配當
金ノ分配案ヲ検査シ此事ニ關シ株主總會ニ報告ヲ爲スコト
- 第三 會社ノ爲メニ必要又ハ有益ト認ムルトキハ總會ヲ招集ス
ルコト

第百九十三條 監查役ハ何時ニテモ會社ノ業務ノ實況ヲ尋問シ會社
ノ帳簿及ヒ其他ノ書類ヲ展閱シ會社ノ金匣及ヒ其全財産ノ現況ヲ

検査スル權利アリ

第百九十四條 監查役中ニ於テ意見ノ分レタルトキハ其意見ヲ總會
ニ提出ス

第百九十五條 監查役ハ第百九十二條ニ掲ケタル書務ヲ缺キタルニ
因リテ生シタル損害ニ付キ會社ニ對シ自己ニ其責任ヲ負フ

第百九十六條 取締役又ハ監查役カ給料又ハ其他ノ報酬ヲ受ク可キ
トキハ定款又ハ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第百九十七條 取締役又ハ監查役ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之
ヲ解任スルコトヲ得其解任セラレタル者ハ會社ニ對シテ解任後ノ
給料若クハ其他ノ報酬又ハ償金ヲ請求スルコトヲ得ス

第六款 株主總會

第百九十八條 總會ハ取締役、監查役又ハ其他本法ニ依リテ招集ノ
權ヲ有スル者之ヲ招集ス

第百九十九條 總會ノ招集ハ會日前ニ其會議ノ目的及ヒ事項ヲ示シ
且定款ニ定メタル方法ニ從ヒテ之ヲ爲ス

此規定ハ創業總會ノ招集ニモ亦之ヲ適用ス
第二百條 通常總會ハ每年少ナクトモ一回定款ニ定メタル時ニ於テ

○商法

之ヲ開キ其總會ニ於テハ前事業年度ノ計算書、財産目錄、貸借對照表、事業報告書、利息又ハ配當金ノ分配案ヲ株主ニ示シテ其決議ヲ爲ス

取締役ノ提出スル書類ニ付テノ監査役ノ報告書ハ其書類ト共ニ之ヲ提出ス

第二百一條 臨時總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲メ何時ニテモ之ヲ召集スルコトヲ得又總株金ノ少ナクトモ五分一ニ當ル株主ヨリ會議ノ目的ヲ示シテ申立ツルトキハ亦臨時總會ヲ召集セサルコトヲ得ス

第二百二條 總會ハ本法ニ於テ別段ノ規定アルトキノ外定款ノ定ニ從ヒテノミ決議ヲ爲スコトヲ得定款ニ其定ナキトキハ總株金ノ少ナクトモ四分一ニ當ル株主出席シ其決議權ノ過半数ニ依リテ決議ヲ爲ス

第二百三條 定款ノ變更及ヒ任意ノ解散ニ付テノ決議ヲ爲スニハ第百六十四條ニ定メタル決議ノ方法ニ依ル

第二百五十三條ノ規定ハ株式會社ニモ亦之ヲ適用ス

第二百四條 株主ノ議決權ハ一株毎ニ一箇タルヲ通例トス然レトモ

十一株以上ヲ有スル株主ノ議決權ハ定款ヲ以テ其制限ヲ立ツルコトヲ得

第七款 定款ノ變更

第二百五條 會社ハ定款ニ定アルトキ又ハ總會ノ決議ニ依リテ定款ヲ變更スルコトヲ得然レトモ法律ノ規定又ハ政府ヨリ免許ニ附シタル條件ニ背違スルコトヲ得ス

第二百六條 會社資本ノ増加ハ株券ノ金額ヲ増シ又ハ新株券ヲ發行シテ之ヲ爲シ又其減少ハ株券ノ金額又ハ株數ヲ減シテ之ヲ爲スコトヲ得但資本ハ其全額ノ四分一未滿ニ減スルコトヲ得ス

會社ハ債券ヲ發行スルコトヲ得此債券ハ記名ノモノニシテ其金額ニ付テハ第七十五條ノ規定ヲ適用ス

第二百七條 會社資本ヲ減セントスルトキハ會社ハ其減少ノ旨ヲ總テノ債權者ニ通知シ且異議アル者ハ三十日內ニ申出ツ可キ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

第二百八條 前條ニ掲ケタル期間ニ議異ノ申出アラサルトキハ異議ナキモノト看做ス

異議ノ申出アリタルトキハ會社ハ其債務ヲ辨償シ又ハ之ニ擔保ヲ

供シテ異議ヲ取除キタル後ニ非サレハ資本ヲ減スルコトヲ得ス

第二百九條 資本ノ減少シタル部分ノ拂戻ヲ受ケタル株主ハ過愆ナ
キ不知ノ爲メ其減少ニ付キ異議ヲ申立テサル債權者ニ對シテ登記
ノ日ヨリ二個年其受ケタル拂戻ノ額ニ至ルマテ自己ニ責任ヲ負
フ

第二百十條 會社ノ定款中既ニ登記ヲ受ケタル事項ヲ變更シタルト
キハ直チニ其變更ノ登記ヲ受ク可シ登記前ニ在テハ其變更ノ効ヲ
生セス

營業所ヲ移轉スルトキハ舊所在地ニ於テ移轉ノ登記ヲ受ケ新所在
地ニ於テハ新ニ設立スル會社ニ付キ要スル諸件ノ登記ヲ受ク可シ
又同一ノ地域内ニ於テ移轉スルトキハ移轉ノミノ登記ヲ受ク可シ
第二百十一條 會社定款ノ變更ノ登記ヲ受ケタルトキハ地方長官ヲ
經由シテ主務省ニ其變更ヲ届出ツルコトヲ要ス

第八款 株金ノ拂込
第二百十二條 株金拂込ノ期節及ヒ方法ハ定款ニ於テ之ヲ定ム其拂
込ヲ催告スルニハ拂込ノ日ヨリ少ナクトモ十四日前ニ各株主ニ通
知スルコトヲ要ス其通知ニハ拂込ヲ爲サ、ル爲メ株主ハ被フル可

キ損失ヲ併示ス

第二百十三條 拂込期節ヲ怠リタル株主ハ定款ニ定メタル遅延利息
及ヒ其遅延ノ爲メニ生シタル費用ヲ支拂フ義務アリ

第二百十四條 拂込ヲ怠リタル株主カ更ニ少ナクトモ十四日ノ期間
ニ於テ拂込ム可キ催告ヲ會社ヨリ受ケ仍ホ拂込ヲ爲サ、ルトキハ
會社ハ其株主ニ通知シテ其株券ヲ公賣スルコトヲ得

第二百十五條 公賣セラレタル株券ノ従前ノ所有者ハ公賣代金カ既
ニ催告ヲ受ケタル拂込金額ニ滿タサルトキハ其不足金及ヒ第二百
十三條ニ記載シタル利息并ニ費用ノ支拂ニ付キ仍ホ責任ヲ負フ但
剩餘アルトキハ會社ハ之ヲ従前ノ所有者ニ還付ス

會社ハ其定款ヲ以テ別ニ違約金ヲ拂フ可キコトヲ定ムルコトヲ得
第九款 會社ノ義務

第二百十六條 會社ハ株金ノ全部又ハ一分ヲ株主ニ拂戻スコトヲ得
ス

若シ拂戻シタルトキハ其金額ハ會社又ハ其債權者直接ニ之ヲ取戻
サント求ムルコトヲ得

第二百十七條 會社ハ自己ノ株券ヲ取得シ又ハ之ヲ質ニ取ルコトヲ

○商法

得ス但債務ノ辨償ノ爲メ若クハ其他ノ事由ニ因リテ會社ニ交付セ
ラレ若クハ移屬シタル株券ハ三个月内ニ於テ公ニ之ヲ賣リ其代金
ヲ會社ニ收ム可シ

第二百十八條 會社ハ毎年少ナクトモ一回計算ヲ閉鎖シ計算書、財
産目錄、貸借對照表、事業報告書、利息又ハ配當金ノ分配案ヲ作リ
監査役ノ検査ヲ受ケ總會ノ認定ヲ得タル後其財産目錄及ヒ貸借對
照表ヲ公告ス其公告ニハ取締役及ヒ監査役ノ氏名ヲ載スルコトヲ
要ス

第二百十九條 利息又ハ配當金ハ損失ニ因リテ減シタル資本ヲ填補
シ及ヒ規定ノ準備金ヲ扣取シタル後ニ非サレバ之ヲ分配スルコト
ヲ得ス

準備金カ資本ノ四分一ニ達スルマテハ毎年ノ利益ノ少ナクトモ一
十分一ヲ準備金トシテ積置クコトヲ要ス

第二百二十條 前二條ノ成規ニ依ラスシテ拂出シタル利息又ハ配當
金ハ會社又ハ其債權者直接ニ之ヲ取戻サント求ムルコトヲ得
第二百二十一條 利息又ハ配當金ノ分配ハ各株ニ付キ拂込ミタル金
額ニ應ジ總株主ノ間ニ平等ニ之ヲ爲ス

第二百二十一條 會社ハ其本店及ヒ各支店ニ株主名簿、目論見書、定
款、設立免許書、總會ノ決議書、每事業年度ノ計算書、財産目錄、貸
借對照表、事業報告書、利息又ハ配當金ノ分配案及ヒ抵當若クハ不
動産質ノ債權者ノ名簿ヲ備置キ通常ノ取引時間中株主及ヒ會社ノ
債權者ノ其求ニ應ジ展閱ヲ許ス義務アリ

第二百二十三條 諸帳簿檢正ノ爲メ事業年度毎ニ一回一个月ヲ超エ
サル期間前條ニ定メタル展閱ヲ停止スルコトヲ得

第十款 會社ノ検査

第二百二十四條 總株金ノ少ナクトモ五分一ニ當ル株主ノ申立ニ因
リテ會社營業所ノ裁判所ハ一人又ハ數人ノ官吏ニ會社ノ義務ノ實
況及ヒ財産ノ現況ノ検査ヲ命スルコトヲ得

第二百二十五條 検査官吏ハ會社ノ金匣、財産現在高、帳簿及ヒ總テ
ノ書類ヲ検査シ取締役及ヒ其他ノ役員ニ説明ヲ求ムル權利アリ

第二百二十六條 検査官吏ハ検査ノ顛末及ヒ其面前ニ於テ爲シタル
供述ヲ調書ニ記載シ之ヲ授命ノ裁判所ニ差出スコトヲ要ス
調書ノ謄本ハ裁判所ヨリ之ヲ會社ニ付與シ又株主及ヒ其他ノ者ヨ
リ手数料ヲ納ムルトキハ其求ニ應ジテ之ヲ付與ス

○商法

第二百二十七條 主務省ハ何時ニテモ其職權ヲ以テ地方長官又ハ其他ノ官更ニ命シテ第二百二十四條ニ掲ケタル検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一款 取締役及ヒ監査役ニ對スル訴訟

第二百二十八條 總會ハ監査役又ハ特ニ選定シタル代人ヲ以テ取締役又ハ監査役ニ對シテ訴訟ヲ爲スコトヲ得

第二百二十九條 會社資本ノ少ナクモ二十分一ニ當ル株主ハ亦特ニ選定シタル代人ヲ以テ取締役又ハ監査役ニ對シテ訴訟ヲ爲スコトヲ得但各株主ノ自己ノ名ヲ用キ又ハ參加人ト爲リ裁判所ニ於テ其權利ヲ保衛スル權ヲ妨ケス

第十二款 會社ノ解散

第二百三十條 會社ハ左ノ諸件ニ因リテ解散ス

第一 定款ニ定メタル場合

第二 株主ノ任意ノ解散

第三 株主ノ七人未滿ニ減シタルコト

第四 資本ノ四分一未滿ニ減シタルコト

第五 會社ノ破産

第六 裁判所ノ命令

第二百三十一條 會社解散ノ場合ニ於テハ既ニ始メタル取引ヲ完結シ又ハ現ニ存在スル會社義務ヲ履行スル外其業務ヲ止ム取締役之ニ拘ハラヌシテ營業ヲ續行スルトキハ此カ爲メ其全財産ヲ以テ自己ニ責任ヲ負フ

第二百三十二條 會社解散ノ場合ニ於テハ取締役ハ總會ヲ招集シ解散ノ決議ヲ取ル但裁判所ノ命令ニ依リテ解散スル場合ハ此限ニ在ラス

其總會ニ於テハ破産ノ場合ヲ除ク外一人又ハ數人ノ清算人ヲ選定ス

第二百三十三條 前條ニ掲ケタル解散ノ決議又ハ清算人ノ選定ヲ爲サ、ルトキハ裁判所ハ債權者若クハ株主ノ申立ニ因リ又ハ職權ニ依リ其命令ヲ以テ決議ニ換ヘ又ハ清算人ヲ任スルコトヲ得

第二百三十四條 會社ハ破産ノ場合ヲ除ク外決議後七日内ニ解散ノ原由、年月日及ヒ清算人ノ氏名、住所ノ登記ヲ受ケ之ヲ裁判所ニ届出テ又何レノ場合ニ於テモ之ヲ各株主ニ通知シ且地方長官ヲ經由シテ主務省ニ届出ツルコトヲ要ス

第二百三十五條

裁判所ハ解散及ヒ清算ノ實況ヲ監視スル權アリ

第二百三十六條

登記ヲ受クルト共ニ取締役ノ代理權ハ清算人ニ移
ル然レトモ取締役ハ清算人ノ求ニ應シ清算事務ヲ補助スル義務アリ

第二百三十七條

登記後ニ爲シタル株式ノ讓渡及ヒ清算ノ目的ノ爲
メニセサル財産ノ處分ハ總テ無効タリ

第二百三十八條

取締役カ總會ノ招集又ハ登記ノ届出ヲ爲サ、リシ
トキハ此カ爲メ會社又ハ第三者ニ生セシメタル損害ニ付キ其全財
産ヲ以テ自己ニ責任ヲ負フ

第二百三十九條

解散及ヒ清算ノ費用ハ現在ノ會計財産中ヨリ最モ
先ニ之ヲ支拂フモノトス

第十三款 會社ノ清算

第二百四十條

清算人ノ職分ニ付テハ第三百三十條及ヒ第三百三十一條
ヲ適用ス

第二百四十一條

清算人ノ職分ノ踐行ニ付テハ總會ヨリ又ハ株主若
クハ債權者ノ申立ニ因リテ裁判所ヨリ清算人ニ訓示ヲ與フルコト
ヲ得清算人ハ其訓示及ヒ法律ノ規定ヲ遵守スル責任ヲ負フ

第二百四十二條

會社ノ債權者ノ相當ノ理由ヲ以テ爲シタル申立ニ
因リ總會又ハ時宜ニ從ヒテ裁判所ハ債權者ノ利益護視ノ爲メ一人
又ハ數人ノ代人ヲシテ清算ヲ監査シ又ハ清算人ニ參加セシムルコ
トヲ得

第二百四十三條

清算人ハ其選定ノ日ヨリ六十日內ニ會社帳簿ニ依
リテ其財産ノ現況ヲ取調ヘ少ナクとも三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ
ハ其債務ノ辨濟期限ニ至リタル時直チニ之ヲ辨濟ス可ク又債權者
ニハ或ル期間ニ其債權ヲ申出ツ可キ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但其
期間ハ六十日ヲ下ルコトヲ得ス

其公告ニハ債權者期間ニ申出ヲ爲サ、ルトキハ其債權ヲ清算ヨリ
除外セラル、旨ヲ附記ス然レトモ清算人ハ期間ニ申出テサル債權
者ト雖モ其知レタル者ヲ清算ヨリ除外スルコトヲ得ス

第二百四十四條

清算人ハ其期間滿了前ニ於テハ債權者ニ支拂ヲ爲
シ始ムルコトヲ得ス

第二百四十五條

期間後ニ申出テタル債權者ハ會社ノ債務ヲ濟了シ
タル後未ダ株主ニ分配セサル會社財産ノミニ對シテ其辨償ノ請求
ヲ爲スコトヲ得

○附注

第二百四十六條 清算人ハ清算ノ爲メ株主ヲシテ其未タ全額ヲ拂込

マサル株券ニ付キ拂込ヲ爲サシムル權利アリ

第二百四十七條 清算人ハ必要又ハ有益ト認ムルトキハ何時ニテモ總會ヲ招集スルコトヲ得以清算人ハ定款又ハ總會ノ決議ヲ以テ定メタルトキ又ハ總株金ノ少ナクトモ五分一ニ當ル株主ヨリ申立ツルトキハ總會ヲ招集スル義務アリ

第二百四十八條 清算人ハ委任事務ヲ履行シタル後總會ニ計算書ヲ差出シテ其認定ヲ求ム

第二百四十九條 清算人ハ前條ニ掲ケタル認定ヲ得タルトキハ會社ノ債務ヲ濟了シタル殘餘ノ財産ヲ各株主ニ其所有株數ニ應シ金錢ヲ以テ平等ニ分配ス此分配ハ總債權者ニ辨償シタル時ヨリ三個月ノ滿了ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス株主ハ總會ニ於テ金錢ニ非サル物ヲ以テ分配ス可キ決議ヲ爲シタルトキト雖モ之ヲ受取ル義務ナシ

第二百五十條 清算ノ終リタル後清算人ハ總計算書及ヒ一般ノ事務報告書ヲ總會ニ差出シテ卸任ヲ求ム若シ總會ニ於テ卸任ヲ許サ、ルトキハ裁判所ハ清算人ノ申立ニ因リ其命令ヲ以テ之ヲ許スト否

トヲ定ム但其命令ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百五十一條 清算人ハ其行爲ニ付キ總會ノミニ對シテ責任ヲ負フ然レトモ其行爲ニ因リ或ル株主ノ一己ノ權利ヲ害シタルトキハ其株主ハ清算人ニ對シテ其權利ノ承諾及ヒ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得

第二百五十二條 清算人ハ卸任ヲ得タル後商業登記簿ニ清算終了ノ登記ヲ受ケ且之ヲ公告ス其公告ニハ清算ニ付キ生シタル會社ニ對スル請求アレハ之ヲ三個月ノ期間ニ主張ス可キ旨ノ催告ヲ附ス其請求アリタルトキハ清算人ニ於テ之ヲ辨了ス

第二百五十三條 清算中ニ現在ノ會社財産ヲ以テ會社ノ總債權者ニ完済シ能ハサルコトノ分明ナルニ至リタルトキハ清算人ハ破産手續ノ開始ヲ爲シテ其旨ヲ公告シ且會社ノ取引先ニ通知ス

此場合ニ於テ既ニ債權者又ハ株主ニ支拂ヒタルモノ有ルトキハ之ヲ取戻スコトヲ得清算人カ貸方借方ノ此ノ如キ關係ナルコトヲ知リテ爲シタル支拂ニシテ其受取人ヨリ取戻シ得サルモノニ付テハ債權者ニ對シテ其責任ヲ負フ清算人ハ破産管財人ニ其事務ヲ引渡シタルトキハ其任ヲ終リタル

モノトス

第二百五十四條 總會ノ決議ニ依リテ會社ノ帳簿及ヒ其他ノ書類ノ貯藏ヲ委任セラル者ノ氏名、住所ハ清算人ヨリ之ヲ裁判所ニ届出ツ可シ此届出前ニ在テハ清算人其貯藏ノ責任ヲ負フ

第二百五十五條 清算ノ結果即チ左ノ事項ハ清算人ヨリ裁判所ニ届出テ且之ヲ公告ス可シ

第一 支拂又ハ示談ニ因リテ總債權者ニ辨償ヲ爲シタルコト

第二 會社ノ殘餘財産ヲ株主ニ分配シタルコト及ヒ其分配ノ金額

第三 清算費用ヲ辨濟シ及ヒ清算ニ付キ生シタル請求ヲ辨了シタルコト

第四 總會ヨリ又ハ裁判所ノ命令ニ因リテ卸任ヲ得タルコト

第五 會社ノ帳簿及ヒ書類ノ貯藏ニ關スル處置ヲ爲シタルコト

第六 會社ノ株券又ハ債券ノ其効力ヲ失ヒタルコト

其清算ノ結果ハ又清算人ヨリ地方長官ヲ經由シテ主務省ニ届出ツルコトヲ要ス

第四節 罰則

第二百五十六條 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第一 本章ニ定メタル登記ヲ受クルコトヲ怠リタルトキ

第二 登記前ニ事業ニ著手シタルトキ

第二百五十七條 取締役ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第一 株主名簿ヲ備ヘス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

第二 會社解散ノ場合ニ於テ總會ノ招集又ハ株主ヘノ通知ヲ怠リタルトキ

第二百五十八條 取締役ハ左ノ場合ニ於テハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル

第一 第二百五十六條ノ規定ニ反シ株金ノ全部又ハ一分ヲ拂戻シタルトキ

第二 第二百十七條ノ規定ニ反シ會社ノ爲メ其株券ヲ取得シ又ハ質ニ取リ又ハ公賣セサルトキ

第三 第二百十八條又ハ第二百十九條ノ規定ニ反シ利息又ハ配當金ヲ株主ニ拂渡シタルトキ

○商法

第四 第二百二十五條ノ場合ニ於テ會社ノ全額、財産現在高、帳簿及ヒ總テノ書類ノ検査ヲ妨ケ又ハ求メラレタル説明ヲ拒ミタルトキ

合資會社ノ業務擔當社員カ第五百五十三條ノ規定ニ反シ利息又ハ配當金ヲ社員ニ拂渡シタルトキハ亦本條ニ定メタル罰則ヲ之ニ適用ス

第二百五十九條 株式會社ノ清算人ハ左ノ場合ニ於テ八十圓以上百圓以下ノ過料ニ處セラル

第一 第二百四十三條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リタルト

第二 第二百五十三條ノ規定ニ反シ破産手續ノ開始ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

第二百六十條 株式會社ノ清算人ハ左ノ場合ニ於テ八十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル

第一 第二百四十四條ノ規定ニ反シ債權者ニ支拂ヲ爲シ始メタルトキ

第二 第二百四十九條ノ規定ニ反シ株主ニ分配ヲ爲シタルトキ

第二百六十一條 前數條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但其命令ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

過料ノ辨納ニ付テハ業務擔當ノ任アル社員、取締役又ハ清算人連帶シテ其責任ヲ負フ

第二百六十二條 業務擔當ノ任アル社員、取締役、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テ八十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處セラレ情重キトキハ罰金ニ併セ一年以下ノ重禁錮ニ處セラル

第一 官廳又ハ總會ニ對シ書面若クハ口頭ヲ以テ會社ノ財産ノ現況若クハ業務ノ實況ニ付キ故意ニ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ不正ノ意ヲ以テ其現況若クハ實況ヲ隱蔽シタルトキ

第二 公告ノ中ニ詐偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ前ニ掲ケタル者ノ外會社ノ他ノ役員及ヒ使用人カ之ト共ニ犯シタルトキハ亦右ノ罰ニ處セラル

第二百六十三條 發起人カ株式申込ニ付キ詐偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處セラル

第二百六十四條 前二條ニ掲ケタル罰ニ處スルニハ刑事裁判上ノ手續ヲ以テス

第五節 共算商業組合

第二百六十五條 共算商業組合ノ契約ハ會社ニ關スル本法ノ規定ニ從フコトヲ要セス其契約ニ因リテ商事會社及ヒ會社財産ハ成立セ

第二百六十六條 二人以上共通ノ計算書以テ一時ノ商取引又ハ作業ヲ爲スチ當座組合トシテ契約實行ノ爲メ其一二ノ組合員若クハ總組合員ニ於テ又ハ共同代理人ヲ以テ爲シタル行爲ニ付テハ第三者ニ對シテ各組合員直接ニ連帶ノ權利義務ヲ有ス

第二百六十七條 二人以上各自別箇ニ一時ノ商取引若クハ商業ヲ爲シ又ハ商業ヲ營ムト雖モ此ニ因リテ生スル損益ヲ共分スルコトヲ契約シタルモノヲ共分組合トシ各組合員亦前條ニ掲ケタルト同シキ連帶ノ權利義務ヲ有ス然レトモ他ノ組合員ノ爲シタル行爲ヨリ生スル請求ニ對シテハ先訴ノ抗辯ヲ爲ス權利アリ

第二百六十八條 或人カ損益共分ノ契約ヲ以テ他人ノ商取引又ハ商業ニ出資ヲ供シテ之ヲ其者ノ所有ニ移シ商號ニ自己ヲ表示スル名稱ヲ顯ハサス又業務施行ニ與カラサルモノヲ匿名組合トシ其營業者ノ行爲ニ付キ第三者ニ對シ出資未濟ノ場合ニ於テ其出資ノ額ニ

滿ツルマテテ限リ義務ヲ負フ代務人又ハ商業使用人ト爲リテ用務ヲ辨スルハ業務施行ニ與カルモノト看做サス

第二百六十九條 匿名組合ノ損益共分ノ割合ハ明約アルニ非サレハ營業資本總額ニ對スル出資額ノ比例ヲ以テ之ヲ量定ス

第二百七十條 利益ハ損失ニ因リテ減シタル出資ヲ填補シタル後ニ非サレハ之ヲ分配スルコトヲ得ス然レトモ匿名員ハ受取期限ニ至リテ未タ受取ラサル利益又ハ既ニ受取リタル利益ヲ以テ其後ニ生シタル損失ヲ補充スル義務ナシ

第二百七十一條 匿名組合ノ契約ハ其契約ニ於テ時期ヲ定メサリシトキハ六ヶ月前ノ豫告ヲ以テ之ヲ解除スルコトヲ得又其契約ハ營業者ノ破産家資分散若クハ死亡又ハ其營業ノ廢止ヲ以テ終ル

第二百七十二條 契約解除ノ場合ニ於テハ匿名員ノ負擔ニ歸ス可キ損失及ヒ債務ヲ引去リタル後其出資額ヲ之ニ拂戻スコトヲ要ス

第二百七十三條 匿名員ハ契約解除ノ場合及ヒ毎事業年度ノ終ニ於テ計算書ノ差出ヲ求メ及ヒ商業帳簿並ニ書類ヲ展閱調査セント求ムル權利アリ

○商法

亦之ヲ適用ス

第十二章 手形及ヒ小切手

總則

第六百九十九條 手形ハ或ル金額ガ支拂ハル可キ旨ヲ明記シ指圖式又ハ無記名式ニテ發行スル信用證券タリ

手形ニハ條件ヲ付スルコトヲ得ス

第七百條 商ヲ爲スコトヲ得ル各人ハ爲替義務ヲ負フコトヲ得

第七百一條 手形ニ爲替無能力者ノ署名アルモ其他ノ署名ノ効力ハ此カ爲メニ妨ケラル、コト無シ

第七百二條 手形ノ要件ヲ外觀ノ爲メニノミ記入シタル手形ハ其情ヲ知リタル者ノ爲メニハ之ヲ手形ト看做サス

第七百三條 他人ヨリ特ニ委任ヲ受クルコト無ク又ハ代理ノ事實ヲ明記スルコト無クシテ他人ノ爲メニ手形ニ署名スル者ハ此ニ因リテ自己ニ責任ヲ負フ

第七百四條 手形ノ受取人ハ直チニ振出人ニ對シ又其後ノ各所持人ハ其前者ヲ經由シテ振出人ニ對シ番號ヲ記シタル同文ノ手形數通ノ交付ヲ求ムルコトヲ得

手形ノ各所持人ハ需用ニ應シテ自ラ手形ノ謄本ヲ作ルコトヲ得

第七百五條 手形ハ其文言ニ因リテ直接ニ義務ヲ負ハシム但法律又ハ商慣習ニ依リテ例外ト爲ス可キモノハ此限ニ在ラス

第七百六條 法律上ノ要件ヲ掲ケサル手形又ハ其要件ト共ニ違法ノ事項ヲ掲ケタル手形又ハ文言カ互ニ牴觸シ其牴觸ヲ法律ノ許セル方法ヲ以テ取除クコトヲ得サル手形ハ無効タリ

第七百七條 手形上ノ重要ナラサル附記ハ法律上ノ要件ニ適スル手形ノ文言ノ効力ヲ妨ケルコト無ク又爲替上ノ義務ヲ生セシムルコト無シ

第七百八條 偽造又ハ變造ノ手形ハ手形トシテ其効チ有ス然レトモ偽造、變造ニ因リテ義務ヲ生スルコト無シ但一旦生シタル義務ハ變更セサルモノトス

偽造、變造ニ付テノ異議ハ其偽造變造ヲ爲シタル者又ハ其情ヲ知リテ手形ヲ取得シタル者ニ對シテ之ヲ起スコトヲ得

第七百九條 爲替義務ハ其負擔ニ關シテハ手形ニ記載シタル地ノ法律ニ從ヒ若シ其地ヲ記載セサルトキハ債務者ノ住所ノ法律ニ從ヒテ之ヲ定メ又其履行ニ關シテハ履行ヲ爲ス可キ地ノ法律ニ從ヒテ

○商注

五十一

之ヲ定ム

爲替上ノ權利ヲ行使シ及ヒ保全スル爲メニスル行爲ハ其行爲ノ地
ノ法律ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス但手形ニ其他ノ地ヲ記載シタ
ルトキハ此限ニ在ラス

第七百十條 手形又ハ小切手ノ占有者ニシテ正當ノ方法ニ依リ且甚
シキ怠慢ニ出テスシテ之ヲ取得シタル者ハ其手形又ハ小切手若ク
ハ其代金ノ引渡ノ請求ニ應スル義務ナシ但其占有ノ原因消滅シタ
ルトキハ此限ニアラス

第七百十一條 盜取セラレ又ハ紛失シ若クハ滅失シタル手形及ヒ小
切手ニ付テハ第四百三條ノ規定ヲ適用ス

第七百十二條 爲替手形ノ引受人又ハ約束手形ノ振出人ニ對スル爲
替上ノ請求權ハ滿期日ヨリ三ヶ年ヲ以テ時効ニ罹リ又所持人若ク
ハ裏書讓渡人ヨリ振出人若クハ前裏書讓渡人ニ對スル償還請求權
ハ請求ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ三ヶ年ヲ以テ時効ニ罹ル
時効ハ訴ヲ起シ其他各箇ノ裁判上ノ手續ヲ爲スニ因リテ中斷セラ
レ又裁判所ノ判決ニ依リ又ハ書面ニ明示シテ債務ヲ承認シ新債務
ト爲シタルニ因リテ消滅ス

第七百十三條 一曾拂又ハ一曾後定期拂ノ手形ニ在テハ時効ハ呈示
ニ付キ規定セラレタル期間ノ滿了ヨリ始マル但其滿了前ニ呈示ヲ
爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十四條 手形ヨリ生スル請求權ヲ時効ニ因リ又ハ法律ニ規定
シタル行爲ヲ怠リタルニ因リテ失ヒタル者ハ其失ヒタルニ拘ハラ
ス支拂人、振出人又ハ裏書讓渡人ニ對シ此等ノ者カ支拂ハサル爲
替資金若クハ取戻シタル爲替資金ニ因リテ己レヲ利シタル限度ニ
於テ右請求權ヲ主張スルコトヲ得第七百十一條ノ場合ニ係ルモノ
ト雖モ亦同シ

第七百十五條 總テ手形ニ署名ヲ爲シタル者ハ此ニ因リ連帶シテ義
務ヲ負擔ス然レモ此連帶義務ハ各義務者ニ於テ特立ノモノトス
爲替ノ訴ハ其總員ニ對シ又ハ其一人ニ對シテ之ヲ起スコトヲ得

第一節 爲替手形
第一款 振出

第七百十六條 爲替手形ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 第一 振出ノ年月日及ヒ場所
- 第二 爲替金額但文辭ヲ以テ記ス可シ

○商法

第三 支拂人ノ氏名

第四 受取人ノ氏名又ハ其指圖セラレタル人若クハ所持人ニ支拂フ可キ旨及ヒ滿期日並ニ支拂地

第五 振出人ノ署名、捺印

第七百十七條 振出人ハ爲替手形ヲ自己ノ指圖ニテ振出シ又ハ自己ニ宛テ振出スコトヲ得

第七百十八條 爲替手形ノ金額二十五圓以上ナルトキハ無記名式ニテ振出スコトヲ得

第七百十九條 滿期日ハ定マリタル日又ハ日附ノ後定リタル期間又ハ一覽ノ時又ハ一覽後定マリタル期間ニ於テノミ之ヲ定ムルコトヲ得

第七百二十條 爲替手形ニ滿期日ヲ記載セサルトキハ其手形ハ一覽ノ時ニ滿期ト爲ル

第七百二十一條 支拂人ノ住地又ハ其他ノ地(他所拂爲替手形)ハ支拂地トシテ之ヲ記載スルコトヲ得他ノ地ヲ記載シタル場合ニ在テ爲替手形ニ支拂ノ爲メ他人(他所拂人)ヲ明記セサルトキハ支拂人ハ其記載シタル地ニ於テ支拂ヲ爲スコトヲ要ス

第二款 裏書

第七百二十二條 爲替手形ノ受取人及ヒ其後ノ各所持人ハ若シ其手形ニ反對ヲ明記セサルトキハ裏書ヲ以テ之ヲ他人ニ轉付スルコトヲ得

第七百二十三條 裏書ニハ其年月日、場所、裏書讓渡人ノ署名、捺印及ヒ裏書讓受人ノ氏名アルコトヲ要ス然レトモ裏書讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テモ亦裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得

第七百二十四條 裏書ニハ其日ヨリ前ノ日附ヲ爲スコトヲ禁ス之ニ違フトキハ偽造ノ刑ニ處ス

第七百二十五條 無記名式ニテ振出シ又ハ裏書讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ裏書讓渡ヲ爲シタル爲替手形ハ交付ノミヲ以テ之ヲ轉付スルコトヲ得

第七百二十六條 爲替手形ハ滿期後ト雖モ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得又代理若クハ擔保ノ爲メ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得

第七百二十七條 支拂ノ爲メニスル呈示及ヒ拒證書ノ作成ヲ事情ニ因リテ正當時期內ニ爲スコトヲ得サル爲替手形ノ裏書讓渡ハ滿期後ノ爲替手形ノ裏書讓渡ニ同シ

○商法

第七百二十八條 滿期後ノ爲替手形ノ裏書讓渡ハ其裏書讓渡人ノ權利及ヒ義務ノミヲ裏書讓受人ニ轉付スルモノトス然レトモ裏書讓受人ハ滿期後ニ爲替手形ノ裏書讓渡ヲ爲シタル各人ニ對シテ如何ナル方式ニモ羈束セラレズ且獨立シタル償還請求權ヲ取得ス

第七百二十九條 代理ノ爲メ又ハ擔保ノ爲メニスル裏書讓渡ハ其目的ヲ爲替手形ニ記載セサルトキハ第三者ニ對シテ眞ノ裏書讓渡タリ

第七百三十條 代理ノ爲メニスル裏書讓渡ニシテ其目的ヲ記載シタルトキハ其裏書讓受人ハ裏書讓渡人ノ權利及ヒ義務ヲ行フ但特別ノ記載アルニ非サレハ眞ノ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第七百三十一條 擔保ノ爲メニスル裏書讓渡ニシテ其目的ヲ記載シタルトキハ其裏書讓受人ハ裏書讓渡人ト同一ノ權利義務ヲ行フ但債權ノ辨濟ヲ受ケサル場合ノ外眞ノ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第七百三十二條 裏書讓渡ハ各裏書讓渡人ノ順序カ裏書讓受人ニ至ルマテ間斷ナキトキニ限リ裏書讓受人ノ爲メ効力アリ但代理又ハ擔保ノ爲メ裏書讓渡ヲ爲シタル爲替手形ハ裏書讓渡人ニ於テ更ニ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得

第七百三十三條 裏書讓渡ノ法律上ノ効力ハ爲替手形ニ裏書讓渡ヲ禁スル旨ヲ記載シタルカ爲メ之ヲ失フコト無シ但之ヲ禁シタル者ニ對スル償還請求權ハ此カ爲メニ消滅ス

第三款 引受

第七百三十四條 爲替手形ノ所持人ハ其手形ニ別段ノ記載ナキトキハ滿期日前ニ引受ノ爲メ支拂人ニ之ヲ呈示スルコトヲ得若シ支拂人其引受ヲ爲ササルトキハ拒證書ヲ作ルコトヲ得

振出人ハ所持人ニ於テ引受ノ爲メ其手形ノ呈示ヲ爲スコク若シ爲ササルトキハ償還請求權ヲ失フ可キ旨ヲ記スルコトヲ得此場合ニ於テ支拂人引受ヲ爲ササルトキハ其翌日拒證書ヲ作ルヘシ

第七百三十五條 一覽後定期拂ノ爲替手形ハ別ニ短キ呈示期間ノ記載ナキトキハ日附後遅クトモ二年内ニ引受ノ爲メ之ヲ呈示ス可シ若シ之ヲ呈示セサルトキハ振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對スル償還請求權ヲ失フ

支拂人カ方式ニ依レル引受ヲ拒ミ若クハ引受ノ日附ヲ爲スコトヲ拒ムトキハ拒證書ヲ作ルコトヲ得此場合ニ於テハ拒證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス若シ拒證書ヲ作ラサルトキハ呈示期間ノ

末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス但其翌日迄ニ拒證書ヲ作ラサルトキハ振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對シテ擔保ヲ求ムルコトヲ得ス

第七百三十六條 引受ハ支拂人カ爲替資金ヲ受取リタルト否トヲ問ハス爲替手形ノ所持人ニ對シテ滿期日ニ爲替金額ヲ支拂フ義務ヲ支拂人ニ負ハシム又所持人ニ引受ノ旨ヲ記シタル爲替手形ヲ還付シタル後ハ強暴又ハ詐欺ノ場合ヲ除ク外之ヲ取消スコトヲ得ス

第七百三十七條 引受ハ支拂人カ爲替手形ニ引受ノ旨ヲ記シ署名、捺印ヲ爲シ又ハ署名、捺印ノミヲ爲スニ因リテ成ル此方式ニ依ラサル引受ノ効力ハ第八百五條ノ規定ニ從フ

第七百三十八條 即日ニ引受ヲ爲サス又ハ條件若クハ其他ノ制限ヲ以テ之ヲ爲シタルトキハ引受人ハ其引受ノ爲メ當然羈束セラルルモ所持人ハ之ヲ拒ミタリト看做スコトヲ得若シ爲替金額ノ一分ニ付テノミ引受ヲ爲シタルトキハ他ノ部分ニ付テハ其引受ヲ拒ミタリト看做ス

第七百三十九條 所持人ノ引受ノ拒證書ヲ作リタルトキハ其作成ヲ遲延ナク振出人又ハ裏書讓渡人ニ通知ス可シ
右ノ通知ヲ爲シタル所持人ハ振出人又ハ裏書讓渡人ニ對シテ爲替

金額及ヒ拒證書ノ費用並ニ戻爲替ノ費用ヲ滿期日ニ支拂フコトニ付テノ擔保ヲ求ムル權利ヲ有シ各裏書讓渡人ハ自ラ擔保ヲ爲シタルト否トヲ問ハス前者ニ對シテ右同一ノ權利ヲ有ス但拒證書ノ交付ヲ受クルニ非サレハ擔保ヲ供スル義務ナシ

當事者ノ一方カ爲シタル通知及ヒ其受ケタル擔保ハ其後者總員ノ爲メニモ効力アリ

第七百四十條 振出人及ヒ裏書讓渡人ハ擔保ヲ爲スニ換ヘテ前條ニ掲ケタル一切ノ金額ヲ即時ニ所持人ニ支拂ヒ又ハ即時ニ供託所ニ寄託スルコトヲ得

第七百四十一條 擔保又ハ寄託ハ後ニ至リ爲替手形ノ引受アリタルトキ又ハ爲替金額若クハ償還金額ノ支拂アリタルトキ又ハ所持人カ時効若クハ懈怠ニ因リテ爲替手形上ノ權利ヲ失ヒタルトキハ其生シタル費用ヲ引去リテ之ヲ還付スルコトヲ要ス

第七百四十二條 第七百四十條ノ規定ニ從ヒテ爲替金額及ヒ費用ヲ所持人ニ支拂ヒタル者ハ其所持人ニ對シテ裏書讓渡ヲ求メ且爲替手形ト共ニ受取證ヲ記シタル償還計算書ノ交付ヲ求ムルコトヲ得

第四款 榮譽引受

○商法

第七百四十三條

支拂人カ引受ヲ拒ミタル爲替手形ニ同地ニ於ケル豫備支拂人ヲ掲ケタルトキハ其爲替手形ヲ拒證書ト共ニ引受ノ爲メ遅延ナク豫備支拂人ニ呈示ス可シ

第七百四十四條

豫備支拂人ヲ掲ケサルトキト雖モ支拂人及ヒ第三者ハ拒マレタル爲替手形ヲ振出人又ハ裏書讓渡人ノ榮譽ノ爲メニ引受クルコトヲ得然レトモ所持人ハ此ノ如キ參加ヲ許諾スル義務ナシ

第七百四十五條

二人以上ノ參加人アルトキハ最モ多數ノ義務者ノ榮譽ノ爲メニ引受ヲ爲ス者ヲ以テ榮譽引受人トス若シ受榮譽者ヲ記載セサルトキハ振出人ヲ受榮譽者ト看做ス

第七百四十六條

豫備支拂人ノ引受其他所持人カ許諾シタル參加人ノ引受ハ受榮譽者及ヒ其後者ニ擔保ヲ供スル義務ヲ免カレシム

第七百四十七條

榮譽引受ハ支拂人カ支拂ヲ爲ササトキニ於テ參加人ニ滿期後爲替金額ヲ支拂フ義務ヲ負ハシム

第七百四十八條

榮譽引受ハ參加人爲替手形ニ之ヲ記載シテ署名、捺印シ且拒證書若クハ其附箋ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第七百四十九條

拒證書ハ拒證書證明ノ辨償ヲ受ケタル上之ヲ參加人ニ交付シ參加人ハ遅クトモ拒證書作成ノ翌日受榮譽者ニ榮譽引受ヲ爲シタル旨ヲ通知シテ拒證書ヲ送付スルコトヲ要ス若シ此事ヲ怠ルトキハ此ニ因リテ生スル損害ニ付キ責任ヲ負フ

第七百五十條

受榮譽者及ヒ其前者ハ擔保ヲ求ムル權利ヲ有ス然レトモ所持人ハ第七百四十四條ニ依リテ榮譽引受ヲ許諾セサトキニ非サレハ之ヲ有セス

第五款 保證

第七百五十一條

爲替手形ニ於テ爲替債務者ノ署名ニ自己ノ署名ヲ添フル第三者ハ其債務者ト運帶シテ義務ヲ負フ

第七百五十二條

前條ノ義務ヲ負擔スルニハ別ニ書面上ノ陳述ヲ以テスルコトヲ得

第七百五十三條

爲替保證ノ義務ハ明示ノ契約ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得然レトモ其制限ハ契約ヲ爲シタル當事者間ニノミ効力アリ

第六款 支拂

第七百五十四條

爲替金額ハ爲替手形ニ記載シタル貨幣ヲ以テ之ヲ支拂フ可シ若シ特ニ貨幣ノ種類ヲ表示セサルトキハ支拂地ニ於テ商人間ニ流通スル貨幣ヲ以テ支拂ヲ爲ス意思ナリト推定ス

第七百五十五條 支拂ハ第七百七十八條ノ場合ヲ除ク外ハ支拂人カ引受ヲ爲シタルト否トヲ問ハス満期日ニ支拂人ノ方ニテ之ヲ受クルモノトス

支拂恩惠期日ハ之ヲ許サス然レトモ其地慣習ノ支拂日ハ之ヲ遵守スルコトヲ要ス

第七百五十六條 満期日カ一般ノ休日ニ當ルトキハ其後ノ業日ヲ以テ支拂日トス

第七百五十七條 一覽拂爲替手形ハ呈示ノ日ニ満期ト爲ル若シ日附後二年内ニ呈示ヲ爲ササルトキ又ハ二年内ノ呈示期間ヲ其手形ニ定メサルトキハ日附後二年内ヲ以テ満期ト爲ル若シ正當ノ時期ニ呈示ヲ爲ササルトキハ所持人ハ振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對スル償還請求權ヲ失フ

第七百五十八條 債權者カ爲替金額ヲ満期日ニ受取ヲサルトキハ支拂人ハ債權者ノ費用及ヒ危険ニテ其金額ヲ供託所ニ寄託スルコトヲ得此場合ニ於テハ支拂人ハ甚シキ怠慢ニ付テノニ責任ヲ負フ

第七百五十九條 債權者ハ満期日前ニ支拂ヲ受クル義務ナシ若シ満期日前ニ支拂ヲ爲シタルトキハ債務者其危険ヲ負擔ス

第七百六十條 債務者ハ満期ノ時又ハ後ニ所持人ニ支拂ヲ爲スヲ以テ其責ヲ免カル但其際債務者ニ甚シキ怠慢アリタルトキハ此限ニ在ラス

第七百六十一條 支拂ハ受取證ヲ記シタル爲替手形ノ交付ト引換ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

債權者ハ一分ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得ス但一分ノ支拂ノ場合ニ在テハ爲替手形ニ其支拂ヲ記入シ且其支拂ニ付テノ別段ノ受取證ヲ債務者ニ交付ス可シ

第七百六十二條 爲替手形ヲ數通ニシテ振出シタルトキハ債務者ハ其中ノ孰レニ依リテ支拂ヲ爲スモ此ニ因リテ其責ヲ免カル然レトモ裏書アル一通又ハ支拂人ノ引受ヲ記シタル一通ヲ所有者トシテ占有スル第三者ノ權利ヲ妨ケス

第七百十條及ヒ第七百一十一條ノ規定ハ一爲替手形ノ數通ノ引渡及ヒ喪失ニモ之ヲ適用ス

第七百六十三條 引受人ハ一爲替手形ノ數通中ニテ其引受ヲ記セサルモノニ對シテハ擔保ヲ供セシメタル上ニ非サレハ支拂ヲ爲ス義務ナシ引受ヲ記シタル爲替手形數通アル場合ニ在テハ之ヲ合シテ

引渡ササルトキモ亦同シ若シ擔保ノ提供ヲ爲スニ拘ハラズ引受人
カ支拂ヲ拒ムトキハ所持人ハ拒證書ヲ作ルコトヲ得

第七百六十四條 滿期ノ時又ハ後ニ於テ爲替手形上ノ正當ノ所持人
ニ爲ス支拂ハ其所持人カ破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル場
合又ハ第七百十條及ヒ第七百一十一條ノ場合ニ限リ裁判所ノ命令ヲ
以テノミ之ヲ差押フルコトヲ得

第七百六十五條 支拂ニ對シ前條以外ノ方法ヲ以テスル故障又ハ債
務者ノ知ラサル人ニ爲ス支拂ニ付テハ第四百條ノ規定ヲ適用スル
コトヲ得

第七百六十六條 第七百十條及ヒ第七百一十一條ノ場合ニ在テハ爲替
手形ニ付キ自己ノ所有權ヲ疏明シ且裁判所ノ命令ヲ得タル者ハ判
決ノ確定前ニ擔保ヲ供シテ爲替金額ノ支拂ヲ求メ又ハ擔保ヲ供セ
スシテ爲替金額ヲ供託所ニ寄託スルヲ求ムルコトヲ得此寄託ノ場
合ニ在テモ第七百五十八條ノ規定ヲ適用ス

第七百六十七條 支拂人カ正當ノ理由ナクシテ滿期日ニ爲替金額ノ
支拂又ハ寄託ヲ拒ムトキハ所持人ハ其次ノ業日ニ拒證書ヲ作り且
所持人カ償還請求ヲ爲サント欲スル者ニ拒證書ノ作成ヲ通知スル

コトヲ要ス然レトモ所持人ハ爲替手形ニ明記アルニ因リテ拒證書
作成ノ義務ヲ免カルルコトヲ得

第七款 榮譽支拂

第七百六十八條 拒マレタル爲替手形ハ振出人又ハ裏書讓渡人ノ榮
譽ノ爲メ榮譽引受人、支拂人又ハ第三者之ヲ支拂フコトヲ得

第七百六十九條 豫備支拂人其他ノ参加人ノ引受ヲ記シタル爲替手
形ハ拒證書作成ノ後直チニ榮譽引受人ニ支拂ノ爲メ之ヲ呈示ス可
シ

第七百七十條 榮譽支拂若クハ其拒絕又ハ其提供ハ何レノ場合ニ
於テモ之ヲ支拂拒證書又ハ其附箋ニ記載ス可シ

其拒證書ハ爲替手形ト共ニ拒證書費用ノ辨償ヲ受ケタル上之ヲ榮
譽支拂人ニ交付ス

第七百七十一條 榮譽支拂人ハ引受人、振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對
シテ所持人ノ權利ヲ承繼ス但其權利ヲ主張スルニハ所持人ト同一
ノ義務ヲ履行スルコトヲ要ス

第七百七十二條 榮譽支拂ハ受榮譽者ノ後者總員ヲシテ責ヲ免カレ
シム

第七百七十三條 榮譽支拂ヲ提供スル者一人以上アルトキハ支拂人
ヲ以テ榮譽支拂人トシ之ニ次テハ最モ多數ノ義務者ヲシテ責ヲ免
カレシムル者ヲ以テ榮譽支拂人トス
第七百七十四條 所持人ハ榮譽支拂ヲ受クルコトヲ拒ムニ因リテ受
榮譽者及ヒ其後者ニ對スル償還請求權ヲ失フ

第八款 償還請求

第七百七十五條 支拂人カ滿期日ニ爲替手形ノ支拂ヲ爲サ、ルトキ
ハ所持人ハ振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對シ爲替金額及ヒ其利息并ニ
不拂ニ因リテ生シタル一切ノ費用ニ付キ償還請求權ヲ有ス

第七百七十六條 所持人ハ爲替手形ヲ滿期日ニ支拂ノ爲メ呈示ス可
シ若シ支拂ヲ爲サ、ルトキハ滿期日ノ次ノ業日ニ支拂拒證書ヲ作
ル可シ但第七百六十一條第二項ニ掲ケタル一分ノ支拂ノ場合ニ於
テモ亦同シ

第七百七十七條 支拂拒證書ハ既ニ引受拒證書ヲ作リタルトキニモ
債務者カ死亡シ又ハ破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ又ハ其所在
ノ知レサルトキニモ之ヲ作ル可シ

第七百七十八條 引受人ニ對シテ爲替權利ヲ保全スルニハ滿期日ニ
於ケル呈示及ヒ拒證書ノ作成ヲ要セス然レトモ他所拂爲替手形ハ
他所拂人若シ他所拂人ノ記載ナキトキハ支拂人ニ其爲替手形ヲ支
拂フ可キ地ニ於テ支拂ノ爲メ之ヲ呈示ス可シ若シ支拂ヲ爲サ、ル
トキハ同地ニ於テ拒證書ヲ作ル可シ

第七百七十九條 引受人カ破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ其他資
力ノ確チラサルニ至リタル場合ニ於テ爲替支拂ノ爲メ十分ナル擔
保ヲ供セサルトキハ所持人ハ滿期日前ニ支拂拒證書ヲ作リテ償還
請求ヲ爲スコトヲ得

第七百八十條 所持人ハ振出人及ヒ裏書讓渡人ノ各員又ハ總員ニ
對シ償還請求ヲ爲スコトヲ得又償還請求ヲ受ケタル裏書讓渡人ハ
其前者ニ對シテ同一ノ權利ヲ有ス

第七百八十一條 償還請求ヲ爲ス者ハ第七百三十九條ノ規定ニ依リ
テ引受拒證書作成ノ通知ヲ爲シタルニ拘ハラズ尙ホ其償還請求ヲ
爲サント欲スル前者ニ書面ヲ以テ其請求及ヒ支拂拒證書作成ノ通
知ヲ爲スコトヲ要ス其通知ハ所持人ニ在テハ拒證書ヲ作リタル日
ノ翌日、裏書讓渡人ニ在テハ通知書ヲ受取リタル日ノ翌日之ヲ爲
ス可シ但裏書讓渡人ノ通知ハ其後者ノ爲メニモ効力アリ

○商法

第七百八十二條 前者ニ對シテ償還請求ヲ爲シタルモ此カ爲メニ其後者ハ償還義務ヲ免カレヌ

第七百八十三條 拒證書作成ノ義務免除ニ因リテ拒證書作成ノ權利及ヒ償還請求權ハ消滅セス然レトモ此場合ニ於テ其免除ヲ爲シタル者ノ後者ニ在テハ其免除ヲ爲シタル者ニ對シ贖本ヲ以テ爲替手形ノ送付ヲ爲スト同時ニ書面ニテ償還請求ノ通知ヲ爲スヲ以テ足レリトス

第七百八十五條 償還請求權ハ支拂人カ爲替資金ヲ受取リタリトシテ抗辯ノ爲メニ効力ヲ失フコト無シ然レトモ爲替資金ヲ供スル義務アル者ニ對シテハ其者カ爲替資金ヲ供セサリシトノ抗辯ヲ爲スコトヲ得

第七百八十六條 償還請求ハ左ノ額ニ付キ之ヲ爲スコトヲ得

第一 爲替金額及ヒ滿期ノ翌日ヨリ起算シタル年百分ノ十ノ利息

第二 拒證書ノ費用其他必要ナル立替金

第三 戻爲替ヲ振出シタルトキハ其費用

第七百八十八條 償還義務者ハ爲替手形拒證書及ヒ受取證ヲ記シタル

ル償還計算書ノ交付ヲ受クルニ非サレハ支拂ヲ爲ス義務ナシ

第七百八十九條 爲替義務者ハ償還金額ノ支拂ト引換ニテ受取證ヲ記シタル爲替手形及ヒ支拂拒證書ノ交付ヲ所持人ニ求ムル權利アリ

第九款 拒證書作成

第七百九十條 拒證書ハ裁判所ノ役員又ハ公證人之ヲ作ルモノトス若シ其地ニ此等ノ人ナキトキハ被拒者ニ於テ證人二人ノ立會ヲ以テ之ヲ作ル可シ但其證人ハ成年ノ男子タルコトヲ要ス

第七百九十一條 拒證書ハ拒者ノ營業場若シ營業場ナキトキハ其住居ノ内若クハ傍ニ於テ之ヲ作ル可シ但拒者不在ナルトキ又ハ臨席ヲ肯セス若クハ來入ヲ拒ムトキト雖モ亦同シ

若シ已ムヲ得サル場合アルトキハ裁判所又ハ公證人役場ニ於テ拒證書ヲ作ルコトヲ得

第七百九十二條 拒者ノ營業場及ヒ住居ノ知レサル場合ニ於テ支拂地ノ官署ニ問合ヲ爲スモ尙ホ知ルコトヲ得サルトキハ拒證書ハ其官署内ニ於テ之ヲ作ルコトヲ要ス

第七百九十三條 法律上定メタル場所ノ外ニ於テモ拒者ノ承諾アル

トキハ拒證書ヲ作ルコトヲ得

第七百九十四條 一般ノ休日ニハ拒證書ヲ作ルコトヲ得ス然レトモ通常ノ取引時間外ニ於テ之ヲ作ルハ妨ナシ

第七百九十五條 拒證書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

第一 爲替手形ノ全文但最後ノ裏書ニ至ルマテ遺漏ナク記載ス可シ

第二 拒者ノ臨席又ハ不在

第三 引受、支拂又ハ擔保ノ要求及ヒ拒絶竝ニ拒絶ノ理由

第四 右要求及ヒ拒絶ノ日竝ニ場所

第五 榮譽引受又ハ榮譽支拂アルトキハ其旨

第六 年月日、場所及ヒ臨席總員ノ署名、捺印

第七 第七百九十三條ノ場合ニ於テハ拒者ノ承諾

若シ拒者カ署名、捺印スルコトヲ欲セス又ハ署名、捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ證書ニ明記ス可シ

第七百九十六條 第七百九十一條乃至第七百九十四條ノ規定ハ引受

又ハ支拂ノ爲メニスル呈示爲替手形數通ノ要求其他本章ノ規定ニ從ヒ或人ノ方ニテ爲ス可キ行爲ニモ之ヲ適用ス

第七百九十七條 第七百十條及ヒ第七百十一條ノ場合ニ於テハ其情

況ヲ拒證書ニ明示シ且成ル可ク詳細ニ爲替手形ノ旨趣ヲ記シテ爲替手形ノ全文ニ代フ

第七百九十八條 裁判所ノ役員又ハ公證人ハ其作リタル拒證書ノ全文ヲ日日帳簿ニ記入シ且被拒者ノ求ニ依リテ數通ニ之ヲ作ル義務アリ

拒證書作成ノ費用ハ被拒者之ヲ立替フルコトヲ要ス

第十款 戻爲替手形

第七百九十九條 所持人ハ償還金額ニ付キ各償還義務者ニ對シテ戻爲替手形ヲ振出スコトヲ得

第八百條 戻爲替手形ノ費用ノ額ハ仲買人手數料、仲立人手數料、郵便稅、印紙稅及ヒ支拂地ヨリ償還義務者ノ住地ニ宛テ振出シタル

一覽拂爲替手形ノ相場ニ因リテ定マル
右ノ場合ハ戻爲替手形ヲ遞次振出ス場合ト雖モ本爲替手形ノ支拂地ヨリ振出地ニ宛テタル一覽拂爲替手形ノ相場ヲ超ユルコトヲ得

第八百一條 戻爲替手形ニハ拒マレタル爲替手形、拒證書及ヒ償還

○商法

計算書ヲ添フ可シ

第八百二條 戻爲替手形ヲ支拂ヒタル者ハ其前者中ノ一人ニ宛テ更ニ戻爲替手形ヲ振出ス可ト得

第十一款 資金

第八百三條 振出人又ハ自己ノ計算ニテ爲替手形ヲ振出サシメタル者又ハ明示シテ爲替資金ヲ供スル義務ヲ負ヒタル裏書讓渡人ハ支拂人ニ對シテ爲替資金ヲ供スル義務ヲ負フ

第八百四條 現金支拂ノ外爲替資金義務者カ支拂人ニ對シテ有スル債權又ハ信用ハ之ヲ爲替資金ニ充ツルコトヲ得

第八百五條 方式ニ依ラサル引受ト雖モ其引受ニ依リテ引受人カ爲替資金義務者ヨリ爲替資金ヲ受取リタリトノ推定ヲ生ス但參加引受ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラズ

第八百六條 爲替資金義務者ト所持人トノ間ニ在テハ爲替手形ノ引受ニ依リテ爲替資金ヲ供シタリトノ推定ヲ生セズ

第八百七條 爲替手形ノ支拂ヲ爲シタル支拂人ハ爲替資金ノ請求權ヲ爲替ノ原則ニ從ヒテ主張スルコトヲ得

第八百八條 支拂人ニ代ハリテ爲替手形ノ支拂ヲ爲シタル者ハ支拂

人又ハ償還義務者ニ對シテ所持人ノ權利ヲ主張スルコトヲ得

第八百九條 振出人及ヒ裏書讓渡人ハ爲替資金ヲ供シタルモ爲替手形ノ引受及ヒ支拂ニ付キ連帶ノ責任ヲ免カルルコトヲ得然レトモ其責任ハ別段ノ契約ヲ以テ其契約者間ニ於テノミ之ヲ制限シ又ハ廢止スルコトヲ得

第八百十條 支拂人ハ爲替資金ヲ受取リタルトキハ勿論假令之ヲ受取ラサルモ振出人其他ノ爲替資金義務者ニ對シ爲替手形ノ引受及ヒ支拂ノ義務ヲ明示ニテ負擔シタルトキハ引受若クハ支拂ヲ爲ササルニ因リテ振出人其他ノ爲替資金義務者ニ生セシメタル損害ニ付キ責任ヲ負フ但此損害ニ付テノ請求ハ豫メ之ヲ支拂人ニ通知スルコトヲ要ス

第二節 約束手形

第八百十一條 約束手形ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

第一 振出ノ年月日及ヒ場所

第二 支拂金額但文辭ヲ以テ記ス可シ

第三 受取人ノ氏名又ハ其指圖セラレタル人若クハ所持人ニ支拂フ可キ旨

○商法

第四 満期日

第五 振出人ノ署名、捺印

第八百十二條 約束手形ハ振出人ノ指圖ニテ之ヲ振出スコトヲ得ス
第八百十三條 約束手形ニ別段ノ支拂地ヲ掲ケサルトキハ振出ノ場
所ニ於テ其支拂ヲ爲スコトヲ要ス

第八百十四條 約束手形ノ振出人ハ其振出ニ因リテ満期日ニ支拂ヲ
爲ス義務ヲ負擔ス

振出人ニ對シテ爲替權利ヲ保全スルニハ引受テモ支拂ノ爲メノ呈
示ヲモ拒證書ノ作成ヲモ要スルコト無シ然レトモ一覽後定期拂ノ
約束手形又ハ他所拂人ヲ掲ケタル約束手形ニ在テハ其振出人ニ關
シテモ第七百三十五條及ヒ第七百七十八條ノ規定ヲ適用ス

第八百十五條 右ノ外爲替手形ニ關スル規定ハ性質上牴觸セサルモ
ノニ限リ約束手形ニモ之ヲ適用ス

第三節 小切手

第八百十六條 小切手ハ寄託其他ノ方法ニ依リ銀行ニ對シテ繼續ス
ル信用ヲ有スル者カ其銀行ニ依頼シ之ヲ記名セラレタル人又
ハ指圖セラレタル人若クハ所持人ニ呈示ヲ受ケ次第或ル金額ヲ支

拂ハシムル證券タリ

第八百十七條 小切手ニハ年月日ヲ記シ振出人署名、捺印ス可シ又
小切手ハ一覽拂トスルニ非サレハ之ヲ振出スコトヲ得ス其他銀行
ト明示又ハ黙示ニテ約定シタル振出ノ方式ハ之ヲ遵守スルコトヲ
要ス

第八百十八條 小切手ハ裏書ヲ以テ轉付スルコトヲ得若シ裏書讓渡
人ノ署名捺印ノミヲ以テ裏書讓渡ヲ爲シタルトキ又ハ無記名式ニ
テ振出シタルトキハ交付ニ因リ之ヲ轉付スルコトヲ得

第八百十九條 小切手ハ引受テモ拒證書ヲモ要スルコト無シ又小切
手ハ日附後三ヶ年ヲ以テ時効ニ罹ル

小切手ハ同地内ニ於テハ日附後五日內又振出地ト支拂地ト同シカ
ラサルトキハ十日內ニ其支拂ヲ請求ス可シ

第八百二十條 呈示ノ上ニテ支拂ヲ受ケサルハ同地内ニ於テハ日
附後十日內又振出地ト支拂地ト同シカラサル場合ニ於テハ二十日
内ニ所持人ハ裏書讓渡人若クハ振出人ニ對シ裏書讓渡人ハ其前者
若クハ振出人ニ對シテ償還請求權ヲ有ス但右ノ期限ヲ過キタルモ
裏書讓渡人カ請求ヲ受ケタル翌日ニ爲シタル償還請求ハ有効ナリ

○商法

振出人ニ對シテハ振出人カ信用ヲ有セス又ハ信用ヲ消盡シ又ハ依
頼ヲ取消シタルトキハ右期間ノ滿了後ト雖モ償還請求權ヲ有ス
振出人ハ爭アル場合ニ在テハ其小切手帳及ヒ通帳ヲ裁判所ニ差出
ス義務アリ

第八百二十一條 振出人又ハ所持人ハ小切手ニ横線ヲ附シ其横線内
ニ特ニ銀行ノミニ支拂フ可キ旨ヲ記載スルコトヲ得

第八百二十二條 小切手ハ支拂金ヲ受取ル時受取證ヲ記シテ之ヲ交
付スルコトヲ要ス

第八百二十三條 日附ヲ爲サス若クハ虚偽ノ日附ヲ爲シテ小切手ヲ
振出シ裏書讓渡シ若クハ之ニ受取證ヲ記スル者又ハ日附ヲキ小切
手ヲ受取リ支拂ヒ若クハ之ニ受取證ヲ記スル者又ハ相當ノ信用ナ
クシテ小切手ヲ振出シ若クハ正當ノ理由ナクシテ依頼ヲ取消ス者
ハ小切手金額ノ百分ノ十ノ過料ニ處ス若シ刑法上ノ刑ニ處ス可キ
行爲アルトキハ併セテ其刑ニ處ス

前項ノ過料ニ付テハ第二百六十一條第一項ノ規定ヲ適用ス

第三編 破産
第一章 破産宣告

第九百七十八條 商ヲ爲スニ當リ支拂ヲ停止スル者ハ自己若クハ債
權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ニ因リ裁判所ノ決定ヲ以テ破産者トシ
テ宣告セラル但此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第九百七十九條 支拂停止ハ其停止ヲ爲シタル本人ヨリ又會社ニ在
テハ業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役又ハ清算人ヨリ支拂停止ノ
日ヲ算入シテ五日内ニ其營業所又ハ住所ノ裁判所ニ書面ヲ以テ又
ハ口述ヲ調書ニ筆記セシメテ届出ツ可シ此届出ニハ支拂停止ノ事
由ヲ明示シ及ヒ貸借對照表並ニ商業帳簿ヲ添フルコトヲ要ス
貸借對照表ニハ左ノ諸件ヲ包含ス

- 第一 總テノ動産、不動産其他債權ノ列擧及ヒ價額
 - 第二 總テノ債務
 - 第三 利益及ヒ損失ノ概要
 - 第四 毎月ノ一身上ノ費用及ヒ家事費用ノ支出額
- 第九百八十條 破産決定書ニハ左ノ諸件ヲ包含ス
- 第一 支拂停止ノ日時但此日時ハ後日裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ
定ムルコトヲ得
 - 第二 破産主任官及ヒ一人又ハ二人以上ノ破産管財人ノ選定

○商法

第三 破産財團ノ保全ニ必要ナル處分ニ付テノ命令

第四 破産者ノ債務者又ハ財團ニ屬スル物ノ占有者ニ對スル拂渡差押ノ命令

第五 破産者ノ總債權者ニ對シ其請求權ヲ短クトモ三個月長クトモ六個月ノ期間ニ破産主任官ニ届出ツ可キ旨ノ催告

第六 調査會ノ期日及ヒ債權者集會ノ期日ノ指定

第七 破産宣告ノ日時

破産決定書ハ之ヲ檢事ニ送致ス可シ

第九百八十一條 破産宣告ハ即時ニ裁判所ノ揭示場並ニ破産者ノ營業場ニ貼附シ及ヒ其地ノ新聞紙ニ載セテ之ヲ公告スルコトヲ要ス其宣告ハ假執行ヲ爲スコトヲ得

第九百八十二條 破産者ノ財産ヲ以テ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラサルトキハ前條ノ手續ヲ除ク外其後ノ手續ヲ停止ス其手續ノ停止ハ之ヲ公告スルコトヲ要ス

然レトモ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ル破産者ノ財産アルコトヲ證明スルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ即時其手續ヲ再施ス

破産手續ノ停止ハ其繼續スル間ハ第千四十九條ニ掲ケタル効力ヲ

有ス

第九百八十三條 破産主任官ハ總テノ破産手續ヲ指揮シ及ヒ監督スルコトヲ要ス其命令ハ假執行ヲ爲スコトヲ得然レトモ此命令ニ對シテハ破産裁判所ニ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第九百八十四條 檢事ハ職權ヲ以テ破産者ノ罰セラル可キ所爲ノ有無ヲ捜査シ且此カ爲メ取引帳簿其他ノ書類ノ展閱ヲ求ムルヲ得

第二章 破産ノ効力

第九百八十五條 破産宣告ニ依リ破産者ハ破産手續ノ繼續中自己ノ財産ヲ占有シ管理シ及ヒ處分スル權利ヲ失フ

破産宣告ノ日ヨリ以後ハ破産者ノ爲シタル支拂其他總テノ權利行爲及ヒ破産者ニ爲シタル支拂ハ當然無効トス

破産者ノ動産、不動産ニ關スル訴及ヒ執行ハ特リ管財人ヨリ又ハ管財人ニ對シテ之ヲ起シ又ハ繼續スルコトヲ得

第九百八十六條 破産者ノ營業ノ用ニ供スル動産ニ對シテ不動産賃賃ノ爲メニスル強制執行ハ三十日間之ヲ猶豫ス但賃貸人カ其賃貸物ヲ取戻ス權利ヲ有スルトキハ此限ニ在ラス

第九百八十七條 各箇債權者ハ優先權ノ存スルニ非サレハ破産處分

○商法

中破産者ノ財産ニ對シテ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス

第九百八十八條 辨濟期限ノ未タ至ラサル破産者ノ債務ハ破産宣告

ニ依リテ辨濟期限ニ至リタルモノトス

爲替手形ノ引受人又ハ引受ナキ爲替手形ノ振出人又ハ約束手形ノ振出人カ破産宣告ヲ受ケタルトキハ其償還義務ニ付テモ前項ノ規定ヲ適用ス

第九百八十九條 財團ニ對シテハ破産宣告ノ日ヨリ利息ヲ生スルコ

トヲ止ム但抵當權、質權其他ノ優先權ヲ以テ擔保セラレタル債權ハ其擔保物ノ賣却代金ニ滿ツルマテヲ限トシテ利息ヲ生スルコトヲ得

第九百九十條 支拂停止後又ハ支拂停止前三十日内ニ破産者カ爲シ

タル贈與其他ノ無償行爲又ハ之ト同視ス可キ有償行爲期限ニ至ラサル債務ノ支拂期限ニ至リタル債務ノ代物辨濟及ヒ從來負擔シタル債務ノ爲メ新ニ供スル擔保ハ財團ニ對シテハ當然無効トス

第九百九十一條 前條ニ掲ケタルモノノ外債務者カ支拂停止後破産宣告前ニ財團ノ損害ニ於テ爲シタル總テノ支拂及ヒ權利行爲ハ相手方カ支拂停止ヲ知リタルトキニ限り財團ノ計算ノ爲メ之ニ對シ

テ異議ヲ述ブルコトヲ得

然レトモ手形ヲ支拂ヒタル場合ニ於テハ爲替手形ヲ振出シ又ハ振出サシムル際支拂停止ヲ知リタル振出人又ハ振出委託人ヨリ又約束手形ニ在テハ裏書讓渡ノ際支拂停止ヲ知リタル第一ノ裏書讓渡人ヨリ其支拂金額ヲ償還スルコトヲ要ス

第九百九十二條 有効ニ取得シタル抵當權其他合式ノ登記ニ因リテ法律上効力ヲ有ス可キ權利ハ支拂停止後ニ在テハ其取得ノ時ヨリ十五日ヲ過キサルトキニ限り破産宣告ノ日マテ登記ヲ爲スコトヲ得

第九百九十三條 破産宣告ノ時ニ破産者及ヒ其相手方ノ未タ履行セズ又ハ履行ヲ終ラサル雙務契約ハ孰レノ方ヨリモ無賠償ニテ其解約ヲ申入ルルコトヲ得

賃貸借契約又ハ雇傭契約ニ在テハ解約申入ノ期間ニ付キ協議調ハサルトキハ法律上又ハ慣習上ノ豫告期間ヲ遵守ス可シ

第九百九十四條 契約者ノ一方ノ義務不履行ノ爲メ他ノ一方ニ於テ契約ヲ解除スル權利又ハ既ニ給付シタル物ヲ取戻ス權利ハ財團ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ス

第九百九十五條 相殺ノ權利アル債權者ハ期限ニ至ラサル債權又ハ

○商法

金額未定ノ債權ト雖モ財團ニ對シテ其効用ヲ致サシムルコトヲ得
債權カ支拂停止後ニ生シ又ハ取得シタルモノナルトキハ支拂停止
ヲ知リタル場合ニ限リ相殺ヲ許サス

第九百九十六條 債務者カ債權者ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ爲シタ
ル權利行爲ハ相手方カ情ヲ知リタルトキニ限リ其日附ノ如何ヲ問
ハス之ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得

第三章 別除權

第九百九十七條 債務者ノ動産又ハ不動産ニ對シテ抵當權、質權其
他ノ優先權ヲ有スル債權者ハ財團ヨリ先ツ辨償ヲ受ケタルニ非サ
レハ其擔保物ノ賣拂代金ヨリ費用、利息及ヒ元金ノ支拂ヲ受クル
爲メ別除ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得若シ其賣拂代金ノ剩餘アルト
キハ買主之ヲ財團ニ拂込ム可シ

第九百九十八條 優先權及ヒ其順序ハ民法及ヒ特別ノ法律ニ依リテ
定マル

第九百九十九條 優先權ヲ有スル者其擔保物ノ賣拂代金ヨリ完全ナ
ル辨償ヲ受ケサルトキハ其未濟ノ債權ハ他ノ債權者ト平等ナル割
合ヲ以テ財團ニ對シテ之ヲ主張スルコトヲ得

第一千條 債務者カ其支拂停止後ニ遺産ヲ取得シタルトキハ遺産債權
者及ヒ受遺者ハ遺産トシテ仍ホ現存スル遺産物ヨリ又ハ未タ債務
者ニ支拂ハレサル遺産ニ屬スル金錢ヨリ別除ノ辨償ヲ請求スルコ
トヲ得

第一千一條 破産者ノ財産ニシテ民事訴訟法ニ從ヒ強制執行ノ爲メ差
押フルコトヲ得サルモノハ之ヲ財團ニ加フルコトヲ得ス但債權者
ニ優先權ノ屬スルモノニ付テハ第九百九十七條ノ規定ニ從フ

第四章 保全處分

第一千二條 裁判所ハ破産宣告ト同時ニ債務者ノ動産ノ封印ヲ命ス
會社ニ在テハ連帶無限ノ責任ヲ負ヘル總社員ノ財産ニ對シテ右ノ
處分ヲ行フ

第一千三條 破産者カ逃走シ若クハ其財産ヲ隱匿スルノ虞アリト認ム
ルトキハ裁判所ハ其監守ヲ命スルコトヲ得

會社ニ在テハ業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ニ對シテ右ノ處分
ヲ行フ
破産者ハ裁判所ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其住地ヲ離ルルコトヲ
得ス又裁判所ハ何時ニテモ債務者ノ引致ヲ命スルコトヲ得

第千四條 管財人カ破産者ノ財産目録ニ載セ且之ヲ占有シタルトキ又ハ監守ノ事由最早存セサルトキハ裁判所ハ其決定ヲ以テ破産者ヲ放釋ス可シ

然レトモ破産者ヲシテ裁判所又ハ管財人ノ呼出ニ應シ何時ニテモ出頭ス可キ爲メノ擔保ヲ供スル義務ヲ負ハシムルコトヲ得取上ケタル擔保ハ之ヲ財團ニ歸セシム

第千五條 管財人カ債務者ノ財産ヲ財産目録ニ載セ且之ヲ占有シタルトキハ直チニ其封印ヲ解ク可シ

第千一條ニ依リ財團ニ加フルコトヲ得サル物及ヒ財團ノ爲メニスル即時ノ換價又ハ繼續利用ヲ封印ノ爲メ妨ケラル物ニハ封印ヲ爲ササルコトヲ得此等ノ物ハ直チニ財産目録ニ載セ管財人之ヲ占有スルコトヲ要ス

債務者ノ商業帳簿ハ即時之ヲ管財人ニ交付シ且其帳簿ノ現狀ハ破産主任官之ヲ認證ス

特ニ高價ナル物ハ即時之ヲ管財人ニ交付シ又ハ一時之ヲ裁判所ニ引取ルコトヲ得

第千六條 破産者ニ對シテ債務ヲ負ヒ又ハ財團ニ屬スル物ヲ占有スル者ハ其支拂又ハ交付ヲ管財人ニノミ爲ス可キコトヲ拂渡差押ノ命令ヲ以テ催告セラレタルモノトス
別除權ヲ行ハント欲スル者ハ其旨ヲ管財人ニ申出ツ可シ若シ管財人ヨリ其物ノ評價ヲ爲サンコトヲ求ムルトキハ之ヲ承諾スルコトヲ要ス

債務者ニ宛テタル電信、書狀其他ノ送達物ハ之ヲ管財人ニ交付ス可シ其管財人ハ開封ノ權ヲ有ス然レトモ其旨趣カ財團ニ關係ナキトキハ管財人ヨリ債務者ニ引渡スコトヲ要ス

破産裁判所ハ此カ爲メ郵便局、電信局其他ノ運送取扱所ニ必要ナル命令ヲ發ス可シ

第千七條 破産主任官ハ破産者及ヒ其家族ニ財團ヨリ給養ノ扶助料ヲ與フルコトヲ得

第五章 財團ノ管理及ヒ換價

第千八條 各裁判所管轄區ニハ職務上義務ヲ負フ可キ破産管財人ノ名簿ヲ備置キ破産裁判所ハ各箇ノ場合ニ於テ其名簿中ヨリ管財人ヲ選定ス

第千九條 管財人ノ勤勞ニ對スル報酬ハ財團ヨリ第一ニ之ヲ支拂ヒ

○商法

其額ハ破産裁判所之ヲ定ム

第十條 裁判所ハ何時ニテモ管財人ヲ易ヘ又ハ他ノ管財人ヲ加フルコトヲ得

第十一條 管財人ハ其行爲ニ付テハ代理人ト同一ノ責任ヲ負フ若シ管財人二人以上アルトキハ共同ニ非サレハ行爲ヲ爲スコトヲ得ス但破産主任官カ或ル行爲ニ付キ各箇ニ特別ノ委任ヲ與ヘタルトキハ此限ニ在ラス

第十二條 管財人ハ破産宣告後即時ニ財團ヲ占有シ且其管理及ヒ換價ニ著手スルコトヲ要ス

管財人ハ其執務ノ爲メ破産者ノ補助ヲ求ムルコトヲ得破産主任官ハ此カ爲メ破産者ニ報酬ヲ與フルコトヲ得

第十三條 管財人ハ破産主任官ノ監督ヲ受ケ且其指揮ニ從フ義務アリ若シ管財人ノ行爲又ハ決斷ニ對シテ異議ヲ述フル者アルトキハ破産主任官命令ヲ以テ之ヲ決ス此命令ニ對シテハ破産裁判所ニ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第十四條 財産目録ハ裁判所職員又ハ其地警察官吏ノ立會ヲ以テ管財人之ヲ作り若シ必要アルトキハ破産者ヲモ立會ハシム

破産者ニ屬スル總テノ財産ハ財團ニ組入ル可カラサルモノト雖モ其價額ヲ明示シテ之ヲ財産目録ニ記入スルコトヲ要ス必要ナル場合ニ在テハ其價額ハ鑑定人ヲシテ之ヲ鑑定セシム
財産目録及ヒ之ニ關スル調書ノ認書アル謄本ハ公衆ノ展閱ニ供スル爲メ裁判所ニ之ヲ備フ

檢察ハ其見込ニ因リ職權ヲ以テ財産目録ノ作成ニ立會スコトヲ得
第十五條 破産者ニ屬セサル財産ヲ財團ヨリ取戻スコトニ係ル爭訟ハ破産裁判所之ヲ裁判シ不動産ニ付テハ其所在地ヲ管轄スル裁判所之ヲ裁判ス

第十六條 管財人ハ破産主任官ノ定メタル三十日以内ノ期間ニ破産者ヨリ差出シタル届書及ヒ貸借對照表ヲ調査シ若シ破産者ヨリ之ヲ差出ササリシトキハ自ラ貸借對照表ヲ作り且其報告書ニ貸借對照表ヲ添テ破産主任官ニ提出ス可シ
報告書及ヒ貸借對照表ノ認證アル謄本ハ公衆ノ展閱ニ供スル爲メ裁判所ニ之ヲ備フ

報告書及ヒ貸借對照表ハ之ヲ檢察ニ送致スルコトヲ要ス

第十七條 貸方ノ借方ニ超ユルコト判然ナルトキ又ハ協諧契約ノ

○商法

豫期セラル、間ハ裁判所ハ破産主任官ノ申立ニ因リ且管財人ノ意見ヲ聽キタル後管財人ヲシテ破産者ノ營業ヲ續行セシムル決定ヲ爲スコトヲ得

管財人營業ヲ續行スル場合ニ在テ財團ニ屬スル物ヲ通常ノ營業外ニテ賣却セントスルコトハ破産主任官ノ認可ヲ受ケ且豫メ破産者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第一千零八條 不動産ハ破産主任官ノ認可ヲ受ケテ之ヲ競賣スルコトヲ要ス

動産ハ競賣スルヲ通例トスト雖モ破産主任官ノ認可ヲ受クルトキハ相對テ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

競賣ノ手續ハ總テ民事訴訟法ノ規定ニ依ル

第一千九條 管財人ハ財團ニ屬スル破産者ノ貸方ヲ取立テ及ヒ破産者ノ權利ヲ債務者其他ノ人ニ對シテ主張シ且保全スルヲ要ス
管財人ハ左ニ掲クル行爲ニ付テハ破産者ノ意見ヲ聽キ且破産主任官ノ認可ヲ受ク可シ

第一 訴訟ヲ爲スコト

第二 和解契約又ハ仲裁契約ヲ取結フコト

第三 質物ヲ受戻スコト

第四 債權ヲ轉付スルコト

第五 相續又ハ遺贈ヲ拒絕スルコト

第六 消費借ヲ爲スコト

第七 不動産ヲ買入ル、コト

第八 權利ヲ拋棄スルコト

第九 總テ財團ニ新ナル義務ヲ負ハシムルコト

第二十條 財團ニ收入スル金錢ハ破産主任官ノ定ム可キ常用支出額ノ外遲延ナク之ヲ供託所ニ寄託スルコトヲ要ス其金錢ハ破産主任官ノ支拂命令ニ依ルニ非サレハ支出スルコトヲ得ス

第二十一條 管財人ハ其管財中破産者ニ罰セラル可キ行爲アルヲ知リタルトキハ之ヲ破産主任官ニ届出ツル義務アリ破産主任官其届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ檢事ニ通知ス

第二十二條 破産主任官ハ破産ノ原由、事情、貸方借方並ニ其對照表其他管理及ヒ破産手續ニ關スル事項ニ付キ破産者、其商業使用人雇人其他ノ人ヲ何時ニテモ訊問スルコトヲ得

第六章 債權者

○商法

第一節 債權ノ届出及ヒ確定

第一千二十三條 破産者ノ總債權者ハ破産決定ノ公告ニ因リ債權届出ノ期間ニ其債權ヲ破産主任官ニ届出ツ可キ旨ノ催告ヲ受ケタルモノトス其届出ニハ各債權ノ合法ノ原因及ヒ請求金額若シ優先權アルモノハ其權利ヲ明記シ且證據書類又ハ其謄本ヲ添フ可シ
他所ニ住スル債權者ハ裁判所所在地ニ代人ヲ置ク可シ
債權及ヒ代人任置ノ届出ハ書面ヲ以テ又ハ調書ニ筆記セシメテ之ヲ爲スコトヲ得書面ヲ以テスル場合ニ在テハ二通ヲ差出スコトヲ要ス

所在ノ知レタル債權者ハ右ノ外特ニ裁判所ヨリ書面ヲ以テ其債權届出ノ催告ヲ受ク然レトモ其書面カ債權者ニ達セサルモ此カ爲メ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第一千二十四條 届出ハ之ヲ受取リタルトキ直チニ順次番號ヲ付シテ二箇ノ表ニ記載ス可シ其一ニハ優先權アル債權ヲ掲ケ他ノ一ニハ通常ノ債權ヲ掲ク此債權表ハ公衆ノ展閱ニ供スル爲メ裁判所ニ之ヲ備フ
管財人ハ其使用ノ爲メ届出書及ヒ債權表ノ謄本ヲ受領ス

第一千二十五條 調査會ハ管財人及ヒ成ル可ク破産者ノ面前ニ於テ破産主任官之ヲ開キ且其調書ヲ作ル可シ債權者ハ自身又ハ代理人ヲ以テ此會ニ参加スルコトヲ得

破産主任官ハ債權者ニ取引帳簿若クハ其抜書ノ提出ヲ命スルコトヲ得調査ノ結果ハ債權表及ヒ提出シタル債務證書ニ附記シ且各債權者又ハ其代理人ニ告知スルコトヲ要ス
調査會ハ届出期間ノ滿了後十日乃至十五日間ニ之ヲ開クヲ通例トス

届出期間ノ滿了後ニ届出テタル債權ハ調査會ニ於テ之ヲ調査スルコトヲ得然レトモ其調査ヲ爲スコトニ付キ異議ノ申立アリタルトキ又ハ調査會ノ終リタル後債權ヲ届出テタルトキハ其債權者ノ費用ヲ以テ新ナル調査會ヲ開ク

第一千二十六條 債權ノ確定ハ承認又ハ裁判所ノ判決ヲ以テ之ヲ爲ス
調査會ニ於テ管財人ヨリモ又債權ノ確定シ若クハ貸借對照表ニ掲ケタル債權者ヨリモ異議ヲ申立テサルトキハ債權ハ承認ヲ得タルモノトス
管財人ノ債權ニ係ル承認又ハ異議ハ破産主任官其管財人ニ代ハリ

テ之ヲ爲ス

第一千二十七條 異議ヲ受ケタル各債權ハ若シ其債權者之ヲ取消サ、ルトキハ破産裁判所公廷ニ於テ破産主任官ノ演述ヲ聽キ成ル可ク合併シテ其判決ヲ爲ス可シ其辯論及ヒ判決ハ原告、被告ノ出頭セサルトキト雖モ之ヲ爲ス但此判決ニ對シテハ故障ヲ申立ツルコトヲ得ス

第一千二十八條 判決ハ成ル可ク債權者集會前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス若シ之ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ニ對シテ控訴ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ異議ヲ受ケタル債權者ノ右集會ニ加ハルコトヲ許ス可キヤ否ヤ又幾許ノ金額ニ付キ加ハルコトヲ許ス可キヤ否ヤヲ決定ス債權者ノ優先權ノミカ異議ヲ受ケタルトキハ其債權者ハ通常ノ債權者トシテ右集會ニ加ハルコトヲ得

第一千二十九條 債權ヲ正當時期ニ届出テス又ハ債權ノ確定セサル債權者ハ以後ノ確定ニ因リテ爲ス可キ財團ノ配當ニノミ加ハルコトヲ得然レトモ異議ヲ受ケテ訴訟中ニ在ル債權及ヒ届出並ニ調査ノ爲メ別段ノ期間ヲ定メラレタル在外國債權者ノ債權ニ付テハ以前ノ配當ニ於テ其債權ニ歸スル割前ヲ留存ス

第二節 特種ノ債權者

第一千三十條 主タル債權者ノ破産ニ於テ届出テタル債權ハ協諧契約ノ場合ト雖モ保證人其他ノ共同義務者ニ對シ其全額ニ付キ之ヲ主張スルコトヲ得又保證人又ハ共同義務者ハ主タル債權者ノ破産ニ於テ其償還請求ヲ届出ツルコトヲ得然レトモ主タル債權者ノ爲メニスル協諧契約ノ効果ニ從フ

第一千三十一條 二人以上ノ共同義務者カ破産シタルトキハ其各義務者ノ破産ニ於テ債權ノ全額ヲ届出ツルコトヲ得各自ノ破産財團ノ間ニ於ケル償還請求權ハ之ヲ主張スルコトヲ得ス然レトモ債權者カ受取ル割前ノ額カ主タルモノ及ヒ從タルモノヲ合セタル債權ノ總額ヲ超過スルトキハ其超過額ハ共同義務者中他ノ共同義務者ニ對シテ償還請求權ヲ有スル者ノ財團ニ歸ス

第一千三十二條 左ニ掲クル債權ハ届出及ヒ確定ニ從フコトヲ要セス
第一 裁判費用、管理費用其他破産手續上ノ費用

第二 公ノ手数料及ヒ諸稅

第三 管財人カ財團ノ爲メニ負擔シタル義務ヨリ生スル債權
右債權ハ破産主任官ノ指圖ニ從ヒ通常ノ方法ヲ以テ財團ノ現額ヨ

○商法

リ之ヲ支拂フ

第一千三十三條 破産手續ニ加ハリタルニ因リテ債權者ニ生シタル費用ハ財團ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第三節 債權者集會

第一千三十五條 債權者集會ハ破産主任官之ヲ招集シ及ヒ之ヲ指揮ス

其招集ハ會議ノ事項ヲ明示スル公告ヲ以テ之ヲ爲ス

其集會ハ管財人、債權ノ確定シタル債權者及ヒ第一千二十八條ニ依リテ參加スルコトヲ得ヘキ債權者ヨリ成立ス然レトモ優先權ノ確定シタル債權者ハ其優先權ヲ拋棄シタル限度又ハ優先權ヲ行フニ當リ不足アル可シト推定セラルル限度ニ於テノミ參加ス

債權者ハ代理人ヲ差出スコトヲ得

破産者ハ之ヲ集會ニ呼出スコトヲ得

第一千三十六條 決議ハ出席シタル債權者ノ過半数ヲ以テ爲ス但通例トス其過半数ハ出席員ノ有スル債權額ノ半ヨリ多キ額ニ當ルコト

ヲ要ス

第一千三十七條 集會ニ於テハ破産主任官ハ破産手續ノ從來ノ成行ニ付テノ報告ヲ爲シ管財人ハ管財ノ處理、其結果及ヒ財團ノ現況ニ

付テノ報告ヲ爲ス

集會ハ右ノ報告ニ付テ決議ヲ爲シ若シ破産主任官又ハ管財人ノ意見アリタルトキハ其意見及ヒ債權者ノ爲シタル申立又ハ破産主任官ノ認可ヲ受ケテ破産者ノ爲シタル申立ニ付テ決議ヲ爲ス可シ此等ノ決議ハ裁判所ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第七章 協諧契約

第一千三十八條

法律上ノ義務ヲ履行シタル破産者ニシテ有罪破産ノ

判決ヲ受ケス又其審問中ニ在ラサル者ハ破産主任官ノ認可ヲ受ケ

第一ノ集會ニ於テ債權者ニ協諧契約ヲ提供スルコトヲ得又十分ノ

理由アルトキハ以後ノ集會ニ於テモ之ヲ提供スルコトヲ得然レト

モ其提供ハ一回ニ限ル第一ノ集會ハ普通ノ調査會ヨリ四週日後ニ

之ヲ爲ス協諧契約ノ申立書ハ少ナクトモ集會ノ二十日前ニ之ヲ裁

判所ニ差出シ裁判所ハ之ヲ公衆ノ展閱ニ供シ且其旨ヲ公告ス可シ

第一千三十九條

協諧契約ヲ承諾スルニハ出席シタル債權者ノ過半数

ノ承諾ヲ要ス其過半数ハ議決權アル總債權額ノ四分三以上ニ當ル

コトヲ要ス

管財人及ヒ議決權ヲ有スル債權者又後ニ至リ債權ノ確定シタル債

○商法

權者ハ協諧契約ニ對シテ十日内ニ理由ヲ附シタル異議ヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第千四十條 債權者ノ承諾シタル協諧契約ハ裁判所ノ認可ヲ得テ始メテ法律上有効トス其認可又ハ棄却ニ付テノ決定ハ破産主任官ノ演述ヲ聽キ前條ノ期間滿了後直チニ之ヲ爲ス此決定ニ對シテハ債務者及ヒ異議申立ノ權利アル者ヨリ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第千四十一條 協諧契約ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ棄却ス可シ

第一 第千三十八條及ヒ第千三十九條ノ規定ヲ踐行セサルトキ
第二 協諧契約ニ依リ或ル債權者カ其承諾ナクシテ偏頗ノ處置ヲ受ケ損害ヲ被フルトキ

第三 協諧契約カ詐欺其他不正ノ方法ヲ以テ成リタルトキ

第四 協諧契約カ公益ニ觸ルルトキ

第千四十二條 協諧契約ハ破産者カ後ニ至リ有罪破産ノ判決ヲ受ケタルトキハ當然消滅シ其審問中ハ免訴又ハ無罪ノ宣告ヲ受クルマテ之ヲ停止ス

前條第三號ニ掲ケタル理由アルトキハ協諧契約認可ノ後ト雖モ尙ホ之ニ對シテ異議ヲ申立ツルコトヲ得

第千四十三條 協諧契約ノ確定シタルトキハ管財人ハ直チニ其執務

ヲ罷メ且其執務ニ付キ計算ヲ爲ス可シ

破産者ハ協諧契約ニ別段ノ定ナキトキニ限り任意ノ管理及ヒ處分ノ爲メ其財産ヲ取戻スコトヲ得

協諧契約ノ履行ハ破産主任官ノ監督ヲ以テ之ヲ爲ス

第千四十四條

協諧契約カ棄却セラレ又ハ後ニ至リ消滅シ若クハ取

消サルルトキ又ハ不履行ノ爲メ解除セラルトキハ破産手續ヲ再施シ直チニ財團ノ換價及ヒ配當ヲ爲シテ終局ニ至ラシム其再施シ

タル手續ニハ再施マテノ間ニ債權ヲ得タル者モ參加スルヲ得

不履行ノ場合ニ在テハ協諧契約ノ爲メ立テタル保證人ハ其義務ヲ免カレス

第八章 配當

第千四十五條

第千三十二條ニ掲ケタル債權及ヒ優先權アル債權ヲ

支拂ヒタル後ニ殘レル財團ハ他ノ債權者間ニ平等ノ割合ヲ以テ之ヲ配當ス

破産者カ資本ヲ分チ數箇ノ營業ヲ爲シタル場合ニ在テハ各營業ニ對スル債權者ハ其營業ニ屬スル財團ヨリ優先權ヲ以テ辨償ヲ受ク

第千四十六條 配當ハ普通ノ調査會ノ終リタル後ハ配當ニ足ル可キ財團ノ生スル毎ニ管財人ノ調製シテ破産主任官ノ認可ヲ受ケタル配當案ニ依リテ之ヲ爲ス其案ハ破産主任官之ニ署名シ公衆ノ展閱ニ供スル爲メ裁判所ニ備置キ且其旨ヲ公告ス可シ
配當案ニ對スル異議ハ其公告ノ日ヨリ起算シ十四日內ニ之ヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第千四十七條 前條ニ掲ケタル期間ニ配當案ニ對シテ異議ヲ申立ツル者ナキトキ又ハ異議ノ落著シタルトキハ管財人ハ各債權者ヲシテ其債務證書ヲ提出セシメ之ニ毎回ノ支拂額ヲ記入シテ支拂ヲ爲ス若シ債務證書ノ提出ヲ爲スコト能ハサルトキハ破産主任官ノ許可ヲ得テ債權表ニ依リ支拂ヲ爲スコトヲ得孰レノ場合ニ於テモ債權者ハ配當案ニ受取書ヲ記スルコトヲ要ス

第千四十八條 財團ノ換價及ヒ配當ヲ全ク終リタルトキハ債權者集會ヲ開キ此集會ニ於テ管財人ハ終局ノ計算ヲ爲スコシ此計算ノ濟了シタルトキハ裁判所ハ直チニ破産主任官ノ申立ニ因リテ破産手續ノ終結ヲ決定ス此決定ハ之ヲ公告ス可シ

第千四十九條 破産手續終結ノ後ハ辨償ヲケ受サル債權者ハ破産手續ニ於テ確定シタルニ因リテ得タル權利名義ニ基キ其債權ヲ債務者ニ對シテ無限ニ行フコトヲ得

第九章 有罪破産

第千五十條 破産宣告ヲ受ケタル債務者カ支拂停止又ハ破産宣告ノ前後ヲ問ハス履行スル意ナキ義務又ハ履行スル能ハサルコトヲ知リタル義務ヲ負擔シタルトキ又ハ債權者ニ損害ヲ被フラシムル意志ヲ以テ貸方破産ノ全部若クハ一分ヲ藏匿シ轉匿シ若クハ脱漏シ又ハ借方現額ヲ過度ニ掲ケ又ハ商業帳簿ヲ毀滅シ藏匿シ若クハ偽造、變造シタルトキハ詐欺破産ノ刑ニ處ス

第千五十一條 破産宣告ヲ受ケタル債務者カ支拂停止又ハ破産宣告ノ前後ヲ問ハス左ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキハ過怠破産ノ刑ニ處ス

第一 一身又ハ一家ノ過分ナル費用、博奕、空取引又ハ不相應ノ射利ニ因リテ貸方財産ヲ甚シク減少シ若クハ過分ノ債務ヲ負ヒタルトキ

第二 支拂停止ヲ延ハサンカ爲メ損失ヲ生スル取引ヲ爲シテ支拂資料ヲ調ヘタルトキ

第三 支拂停止ヲ爲シタル後支拂又ハ擔保ヲ爲シテ或ル債權者

ニ利ヲ與ヘ財團ニ損害ヲ加ヘタルトキ

第四 商業帳簿ヲ秩序ナク記載シ藏匿シ毀滅シ又ハ全ク記載セ

サルトキ

第五 破産者カ第三十二條第九百七十九條又ハ第千三條第三項

ニ規定シタル義務ヲ履行セサルトキ

第千五十二條 前二條ノ罰則ハ會社ノ業務擔當ノ任アル社員若クハ

取締役及ヒ清算人ニモ之ヲ適用シ又第千五十條ノ罰則ハ破産管財

人及ヒ有罪行爲ヲ行フ際犯者ヲ助ケ又ハ有罪行爲ヲ破産者ノ利益

ノ爲メニ行ヒタル者ニモ之ヲ適用ス

第千五十三條 債權者集會ニ於ケル議決ニ關シ債權者ニ賄賂ヲ爲シ

タルトキハ其雙方ヲ二年以下ノ重禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十章 破産ヨリ生スル身上ノ結果

第千五十四條 破産宣告ヲ受ケタル債務者又ハ破産シタル會社ノ無

限責任社員ハ復權ヲ得ルニ至ルマテハ取引所ニ立入ルコト仲立人

ト爲リ合名會社若クハ合資會社ノ社員ト爲リ又ハ株式會社ノ取締

役ト爲ルコト清算人、破産管財人若クハ商事代人ノ職ヲ執ルコト

商業會議所ノ會員ト爲ルコト其他商業上ノ榮譽職ニ就クコトヲ得

第千五十五條 復權ヲ得ルニハ協諧契約ノ調ヒタルト否トヲ問ハス

破産者カ元債、利息及ヒ費用ノ全額ヲ債權者總員ニ辨償シタルコ

ト又所在ノ知レサル爲メ未タ辨償ヲ受ケサル債權者ニ全額ヲ辨償

スル準備及ヒ資力アルコトヲ證明ス可シ

復權ノ申立ニハ債權者ノ受取證其他必要ナル證據物ヲ添フ可シ

然レトモ協諧契約ノ場合ニ在テハ第一項ノ證明ヲ爲スコト無クシ

テ取引所ニ立入ルコトヲ得又會社ニ付キ協諧契約ノ調ヒタルトキ

ハ無限責任社員ハ亦其證明ヲ要セスシテ會社ヲ繼續スルコトヲ得

第千五十六條 復權ノ申立アリタルトキハ破産裁判所ハ異議アル者

ヲシテ二个月ノ期間ニ異議ヲ起サシメンカ爲メ裁判所ノ揭示場ト

取引所トニ其旨ヲ揭示シ且裁判所ノ見込ニ因リ新聞紙ヲ以テ之ヲ

公告シ又調査及ヒ搜查ヲ爲サシメンカ爲メ之ヲ檢事ニ通知ス可シ

裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後復權ノ申立ヲ許可スルト否トヲ

決定ス此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得確定シタル決定

ハ之ヲ公告ス

棄却セラレタル申立ハ一个年ノ滿了前ニハ再ヒ之ヲ爲スコトヲ得

第千五十七條 復権ハ債務者ノ死亡後ト雖モ之ヲ許ス

第千五十八條 復権ハ詐欺破産ノ爲メニ判決ヲ受ケタル破産者又ハ重罪、輕罪ノ爲メニ剝奪公權若クハ停止公權ヲ受ケテ其時間中ニ在ル破産者ニハ之ヲ許サス

過怠破産ノ場合ニ在テハ復権ハ刑ノ滿期ト爲リ又ハ恩赦ヲ得タル後ニ非サレハ之ヲ許サス

第十一章 支拂猶豫

第千五十九條 商ヲ爲スニ當リ自己ノ過失ナクシテ一時其支拂ヲ中止セサルコトヲ得サルニ至リタル者ハ商事上ノ債權者ノ過半数ノ承諾ヲ得テ其營業所若クハ住所ノ裁判所ヨリ右債權者ニ對スル義務ニ付キ一个年以内ノ支拂猶豫ヲ受クルコトヲ得

第千六十條 支拂猶豫ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ添附スルコトヲ要ス

第一 支拂中止ノ事由ノ完全ナル明示

第二 貸借對照表、財産目錄及ヒ住所ト債權額トヲ明示シタル債權者名簿

第三 債權者ニ主タルモノ及ヒ從タルモノノ完全ナル辨償ヲ爲シ得ル方法、期間及ヒ此カ爲メ供スルコトヲ得ル擔保ノ證明

右申立及ヒ添附書類ハ公衆ノ展閱ニ供スル爲メ之ヲ裁判所ニ備置キ且債權者ノ集會期日ヲ定メテ之ト共ニ其備置キタル旨ヲ公告スルコトヲ要ス債權者ハ集會ノ爲メ各別ニ招集ヲ受ク

支拂猶豫ハ裁判所ヨリ假ニ之ヲ許可スルコトヲ得

第千六十一條 集會期日ニ於テハ裁判所ヨリ任セラレタル主任判事ノ上席ヲ以テ債務者ト債權者トノ間ニ支拂猶豫ノ申立ニ付キ辯論ヲ爲ス其申立ヲ承諾スルニハ第千三十六條ニ掲ケタル過半数ヲ要ス其辯論及ヒ議決ニ付テハ調書ヲ作ル可シ

第千六十二條 裁判所ハ承諾ヲ得タル支拂猶豫ノ認否ニ付キ主任判事ノ演述ヲ聽キテ決定ヲ爲ス此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

支拂猶豫ハ申立ニ因リテ前數條ノ手續ニ從ヒ一回ニ限り之ヲ延長スルコトヲ得然レトモ其期間ハ一个年ヲ超ユルコトヲ得ス

第千六十三條 債務者有効ナル支拂猶豫ヲ得タルトキハ猶豫期間中其以前ニ取結ヒタル商取引ヨリ生スル債權ノ爲メニ強制執行及ヒ

破産宣告ヲ受クルコト無シ但猶豫契約ノ履行及ヒ業務ノ施行ニ關シテハ主任判事ノ監督ヲ受ク

債務者ノ保證人及ヒ共同義務者ノ義務ハ右猶豫ノ爲メニ變更スルコト無シ

第一千六十四條 支拂猶豫ノ承諾ヲ得ス若クハ裁判所之ヲ棄却シタルトキ又ハ後日ニ至リ債務者ノ詐欺若クハ不正ノ爲メ若クハ法律上ノ條件ノ缺クルカ爲メ之ヲ廢止シタルトキ又ハ債務者ニ於テ其猶豫契約ヲ履行セサルトキ又ハ其猶豫期間中債務者ノ財産ニ付キ他ノ債權者ヨリ強制執行ヲ爲ストキハ直チニ債務者ニ對シテ破産手續ヲ開始ス此場合ニ於テハ支拂猶豫申立ノ日附ヲ以テ支拂停止ノ日ト定ム

商法畢

商法施行條例

○明治二十三年八月法律第五十九號

朕商法施行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

商法施行條例

第一條 商法第二十六條、第二十九條及ヒ第二百十條ニ定メタル一地域トハ各市町村ノ一區域ヲ謂ヒ市町村制ヲ行ハサル地方ニ在テハ從來ノ宿驛町村等ノ一區域ヲ謂フ

一地域内ニ二箇以上ノ區裁判所アルトキハ其内一箇所ヲ以テ登記簿ヲ取扱フ所トス其裁判所ハ司法大臣之ヲ指定ス

第二條 會社ニ非スシテ商業ヲ營ム者ハ其商號ニ會社ノ文字ヲ用ユルコトヲ得ス又從來之ヲ用ユル者ハ商法實施ノ日ヨリ三個月内ニ之ヲ改ム可シ

前項ノ規定ニ違フ者ハ地方裁判所ノ命令ヲ以テ二十圓以下ノ過料ニ處ス

○商法施行條例

第三條 商法第五十九條、第六十六條、第六十八條ノ規定ニ依
リテ官廳ニ差出ス書類ハ公證人ノ認證ヲ受ケタル謄本ヲ以テスル
コトヲ得

公證人謄本認證ノ依頼ヲ受ケタルトキハ一件ニ付キ金十錢ノ手數
料若シ認證ト共ニ謄寫ノ依頼ヲ受ケタルトキハ公證人規則第六十
五條ノ謄本手數料ヲ受クルコトヲ得

第五條 商法實施前ヨリ既ニ設立シタル各會社ハ商法實施ノ日ヨリ
六个月内ニ商法第七十八條第三百三十八條、第六十八條ニ準シテ
登記ヲ受ク可シ之ヲ怠リタルトキハ商法第二百五十六條ノ過料ニ
處シ且地方裁判所ノ命令ヲ以テ其營業ヲ差止ム但其命令ニ對シテ
ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六條 前條ノ期限内ニ登記ヲ受ケサル既設會社ハ其期限經過ノ時
ヨリ第三者ニ對シテ會社タル効ヲ失フ

第七條 商法第八十一條ノ規定ハ既設會社ニ之ヲ適用セス

第八條 既設會社ハ從來ノ商號ヲ續用スルコトヲ得但商法第一百三
條及ヒ第三百三十九條第二項ノ規定ハ商法實施ノ日ヨリ三個月ノ後
既設會社ノ社名ニモ之ヲ適用ス

既設會社ノ商號ニハ其會社ノ種類ニ從ヒ合名會社合資會社又ハ株
式會社ノ文字ヲ附ス可シ

第十條 既設株式會社ハ商法第一百五十六條ノ免許ヲ受クルコトヲ要
セス

既設株式會社ハ商法實施ノ日ヨリ六个月内ニ地方長官ヲ經由シテ
定款ヲ主務省ニ差出シ其定款ノ認可ヲ受ク可シ但其定款ニ法律命
令ニ反スル事ヲ掲ケタルモノハ之ヲ改正スルニ非サレハ認可スル
ノ限ニ在ラス

從來官許ヲ得テ設立シタル株式會社ニハ前項ノ規定ヲ適用セス但
聞置又ハ人民ノ相對ニ任ス等ノ指令ヲ得テ設立シタルモノハ此限
ニ在ラス

本條第二項ニ依リ認可ヲ受ク可キ株式會社ニ在テハ第五條ノ登記
期限ハ其認可ヲ得タル日ヨリ起算ス
右ノ認可ヲ得タル日ヨリ六个月内ニ登記ヲ受ケサルトキハ其認可
ハ効力ヲ失フ

第十一條 既設株式會社ハ其株券ノ金額商法第七十五條ノ規定ニ
反スルモ其定款ノ定ニ依ルコトヲ得

○商法施行條例

第十二條 既設株式會社ハ其定款ニ於テ第一回ノ株金拂込ヲ四分一以下ニ定メタルトキハ商法第六十七條第二項ノ規定ニ反スルモ其定款ノ定ニ依ルコトヲ得

第十三條 既設株式會社ノ創業ニ付テノ義務及ヒ出費ニシテ會社ノ承諾ヲ經タルモノハ第五條ノ登記ヲ受ケサル前ニ於テモ商法第七十一條ノ規定ニ拘ハラス會社ニ於テ之ヲ負擔ス

第十四條 既設株式會社ノ既ニ發行シタル株式ハ商法第七十六條ニ反スルモノ有ルモ之ヲ改ムルコトヲ要セス

第十五條 既設株式會社ニ於テ株金全額ノ拂込前ニ發行シタル株式ハ其全額拂込ニ至ルマテ之ヲ假株券ト看做ス

第十六條 既設株式會社ノ株券ニシテ商法實施前ヨリ株式取引所又ハ取引所ニ於テ既ニ賣買シ來リタルモノ及ヒ既ニ債權ノ擔保ニ供シタルモノニ付テハ商法第八十條ノ規定ヲ適用セス

第十七條 既設株式會社ノ株式ノ讓渡人ニ付テハ商法第八十二條ノ規定ハ商法實施ノ日ヨリ二個年之間之ヲ適用セス

第十八條 既設株式會社ニ於テ既ニ其定款ヲ以テ株主ノ議決權ニ制限ヲ立テタルモノハ商法第二百四條ノ規定ニ反スルモ其定款ニ從

フコトヲ得

第十九條 商法第七十七條第一項ノ規定ハ既設會社ニ之ヲ適用セス
第二十條 商法及ヒ本條例ニ依リ發スル命令書ヲ送達スル場合ニ於テハ其手續ハ民事訴訟法ノ手續ニ從フ

第二十一條 商法第六十七條第二項、第八十一條、第二百二十七條、第二百三十一條、第二百三十三條、第二百五十條及ヒ第二百六十一條並ニ本條例第二條及ヒ第五條ニ依リ裁判所ニ於テ命令ヲ發スルトキハ當事者ヲシテ説明ヲ爲サシムル爲メ之ヲ裁判所ニ呼出スル通例トス但當事者缺席スルモ命令書ハ之ヲ發スルコトヲ得

第二十二條 商法第六十七條第二項、第八十一條、第二百二十七條及ヒ第二百六十一條並ニ本條例第二條及ヒ第五條ニ依リ命令ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ豫メ其旨ヲ檢事ニ通知ス可シ
檢事ハ口頭又ハ書面ヲ以テ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十三條 檢事ハ前條第一項ノ場合ニ於ケル命令ニ付キ其執行ノ責ニ任ス

第二十四條 商法及ヒ本條例ニ依リ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ其期間ハ裁判書ノ送達ヲ受ケタル日ノ翌日又ハ裁判ノ

○附法施行條例

言渡ヲ受ケタルノ日ノ翌日ヨリ起算シテ七日トス

第二十五條 前條ニ掲ケタルモノノ外抗告ニ關スル手續ニ付テハ民事訴訟法第四百五十五條、第四百六十條第一項第二項、第四百六十五條及ヒ第四百六十六條第一項第二項第四項ヲ除ク外總テ同法第三編第三章ノ規定ヲ準用ス

第二十六條 外國ニ於テ支拂ヲ爲ス可キ手形ニハ捺印スルコトヲ要セス

第二十七條 商法第七百九十條ニ掲ケタル裁判所役員ハ執達吏トス

第三十五條 司法大臣ハ各地方裁判所ノ意見ヲ聽キ其所轄地方ノ需用ニ應シテ破産管財人ヲ命シ地方裁判所ハ之ニ依リ破産管財人名簿ヲ作ル可シ

第三十六條 破産管財人タルノ命ヲ受ケタル者ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十七條 破産管財人ノ任期ハ三ヶ年トス但再任セララルコトヲ得

第三十八條 名簿中ノ破産管財人破産裁判所ヨリ選定セラレタルトキハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

執ルコトヲ誓フ可シ

第四十條 破産管財人ハ其擔任スル破産手續中任期滿ツルモ之ヲ終結スルマテ解任スルコトヲ得ス

第四十一條 破産裁判所ハ忌避其他該事件ニ不適當ナルノ理由アリテ名簿中ノ破産管財人ヲ選定ス可カラスト認ムルトキハ他ニ破産管財人ヲ選定スルコトヲ得此場合ニ於テハ直チニ其旨ヲ司法大臣ニ上申ス可シ

前項ノ破産管財人モ名簿中ノ破産管財人ト同一ノ權利及ヒ義務ヲ有ス

第四十二條 職務執行ノ不當又ハ不正ノ爲メ管財人ノ職ヲ除クトキハ破産裁判所公廷ニ於テ其理由ヲ付シテ之ヲ言渡ス可シ

第四十三條 管財人ノ報酬ハ一破産手續ノ全體ニ付キ又ハ收入シタル價額ノ割合ニ應シテ之ヲ定メ財團ノ配當アル毎ニ其歩割ヲ以テ之ヲ支拂フ可シ

第四十四條 第三十六條及ヒ第三十八條ノ規定ニ違フ者ハ刑法第七百七十九條ノ罰金ニ處ス

第四十五條 商法第一千三條ニ依リ裁判所ニ於テ債務者ヲ監守セント

○商法施行條例

スルトキハ其命令書ヲ檢事ニ送致シ檢事ハ債務者ノ住所ヲ管轄ス
 ル警察官署ニ命シ其處分ヲ爲サシム

第四十八條 監守ヲ爲ストキハ警察官吏ナシテ債務者ノ住所ニ就キ
 其逃走若クハ財産ノ隱匿ヲ豫防シ且破産主任官ノ許可ヲ得タルト
 キノ外其債務者ノ外人ト面接若クハ通信スルヲ禁セシム

第四十九條 商法第三十三條第三項ニ依リ債務者ヲ引致スルトキハ特
 ニ作リタル引致狀ヲ以テ之ヲ執行ス但其執行ハ刑事訴訟法ニ定メ
 タル勾引狀執行ノ手續ニ準ス

第五十條 商法第四十條ニ依リ裁判所ニ於テ債務者ヲ釋放スルトキ
 ハ決定書ヲ檢事ニ送致シ其執行ヲ爲サシム

第五十一條 商法中非訟事件ニ關スル裁判所管轄ハ裁判所構成法ニ
 定ムルモノ、外第二百五十四條、第二百五十七條、第四百四十一條、
 第四百九十九條、第五百十四條、第八百五十六條、第九百二條ノ事
 件ニ付テハ區裁判所トシ其他ノ事件ニ付テハ地方裁判所トス

第五十三條 第二項

明治十五年第五十七號布告爲替手形約束手形條例ハ商法實施ノ日ヨ
 リ之ヲ廢止ス

明治廿六年三月廿三日印刷

同 廿六年三月廿五日出版

翻刻兼印刷發行者

岡島幸次郎

大阪市東區南久寶寺町四丁目二十一番屋敷

發賣所

岡島眞七

大阪市東區南久寶寺町四丁目二十一番屋敷

同

岡島寶文館

大阪市東區備後町四丁目十九番屋敷

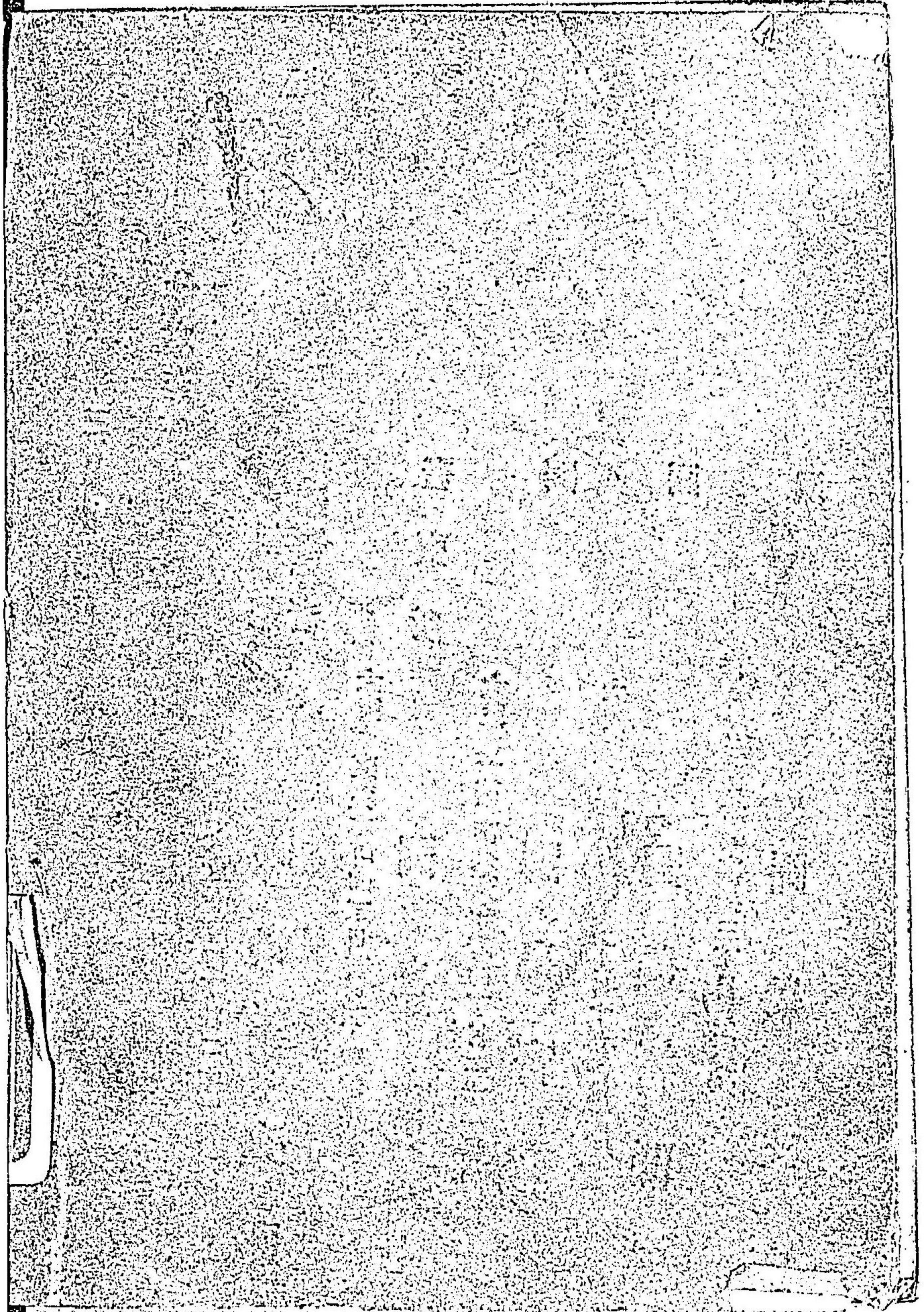
同

岡島新聞鋪

東京市日本橋區通三丁目八番地

同

岡島支店



大坂

寶文館發兌

改正

商法

會手破
社形產
法法法
施行條例

明治廿六年三月出版



034965-000-2

CZ-861-09

改正商法

寶文館

M26

BBO-0087

